

授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

短期大学部 保育科第三部

保育科第三部

兵庫大学短期大学部の教育

兵庫大学短期大学部の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学短期大学部の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方

兵庫大学短期大学部では、本学のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学短期大学部では、ディプロマポリシーに示した「3つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 実践的専門家になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム

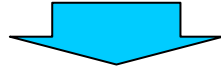
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学短期大学部では、学生が「短期大学士」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や技術を、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学短期大学部 建学の精神・教育理念

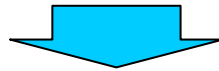


兵庫大学短期大学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



学 科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び、

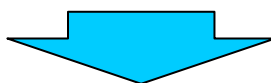
DP に定められた能力を身につけて卒業します。

保育科第一部・第三部ポリシー

アドミッション ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、本学科のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

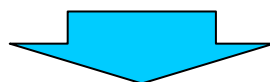
1. 保育・福祉に強い関心を持ち、自ら課題を見つけ積極的に学ぶとする意欲のある人
2. 豊かな人間性を持った質の高い保育者になるために、主体的に自己成長を図ろうとする人
3. 多様な考えを理解しようとする柔軟性を持ち、保育者になるための努力を継続できる意欲のある人



カリキュラム ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、ディプロマポリシーに示した「3つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 保育者になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム



ディプロマ ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、学生が「短期大学士（保育）」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力
2. 他の保育者と連携しながら、子ども・保護者・利用者に適切な支援を行う力
3. 保育の専門的知識・技術を持つとともに、卒業後も、社会状況の変化に対応しながら、保育者としての専門性をさらに高めていく力

「カリキュラムマップ」には

- ・「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。
- ・各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「」や「」が記載されます。

カリキュラムマップ

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		保育科ディプロマポリシー								
授業科目区分	授業科目名	1			2			3		
		保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力								
		1-1			1-2			1-3		
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
		子どものありのままを受け入れる心	子どもを援助し、成長へと誘う使命感	保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力	子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力	子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力	自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力	子ども・保育に関する様々な専門的知識	保育の実践に関する専門的スキル	生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力
基礎科目	日本語（読解と表現）			○	◎					
	英語	◎			○					○
	コンピュータ演習			◎	○					○
教養科目	宗教と人生	◎	○				○			
	文学	○			◎					
	色彩学				◎					
	日本国憲法			◎				○		○
	ジェンダー論			◎			○	○		
	健康・スポーツ科学（講義）				○	◎				○
	健康・スポーツ科学（実技）				○	○	◎			
	健康・スポーツ科学（実技）				○	○	◎			
科目	音楽教育 A				○			○	◎	
	音楽教育 B				○			○	◎	
	音楽教育 C				○			○	◎	
	音楽教育 D				○			○	◎	
	器楽 A							○	◎	○
	器楽 B							○	◎	○
	造形 A							○	◎	○
	造形 B							○	◎	○
	幼児体育 A							○	◎	○
	幼児体育 B							○	◎	○
	算数						○	○		◎
	生活概論						○	○	◎	
	子どもの保健 A		○	○				◎	○	
	子どもの保健 B		○	○				○	◎	
	子どもの保健		○	◎				○	○	
	子どもの食と栄養 A		○				○	◎	○	
	子どもの食と栄養 B		○				○	○	◎	
	家庭支援論			○				○		
	社会福祉			○				○		
	相談援助	○			◎		○	○		
	児童家庭福祉			◎			○	○		
	教育原理		○	○						◎
	保育原理 A		◎				○	○		
	保育原理 B	○		○				◎		
	社会的養護	○	○				○	◎		
	保育相談支援			○			○		◎	
	教育実習	○	○	○		○	○	○	◎	○
	保育実習（保育所）	○			◎		○			
	保育実習指導（保育所）		○				○	◎		
	保育実習（施設）	○				○			◎	
	保育実習指導（施設）			◎			○	○		
	保育実習						○		◎	○
保育実習指導						○		◎	○	
保育実習		○				◎		○		
保育実習指導				◎		○		○		
保育の心理学		○	○				◎			
保育の心理学			○	○		○	◎			
教育心理学			○	○			◎		○	
児童心理学		○	○				◎			
青年心理学		○				◎	○			
臨床心理学	○					◎		○	○	
教育制度論			○				◎		○	
教師・保育者論		○					○		◎	
保育課程総論			○			○	◎			
保育内容総論		◎	○				○	○		
保育内容・健康		◎				○	○	○		
保育内容・人間関係		◎			○		○	○		
保育内容・環境		◎				○	○	○		
保育内容・言葉		◎			○		○	○		
保育内容・表現 A		◎					○	○	○	
保育内容・表現 B		◎			○		○	○		
保育方法論				○		◎		○		
社会的養護内容	○				◎		○			
乳児保育 A	○				◎		○			
乳児保育 B	○	◎			○		○			
障害児保育 A	○	◎			○		○			
障害児保育 B		○				◎	○	○		
教育相談	○		◎				○	○		
保育・教職実践演習（幼稚園）	○	○	○		○	○	○	○	○	

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」(下表 1-1...、2-2...など)の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
5年制に学ぶ	コミュニケーション	プレゼンター	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」(マップ上部 1-1...、2-1...など)をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

平成 25、24、23 年度入学者

教育課程

授業科目の構成（詳細は学則参照）

基礎・教養科目 学科教育科目 に大別される。

卒業所要単位

保育科第三部においては、本学に3年以上（5年以内）在学し、62単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

* 詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
学科教育科目	48 単位以上	必修科目 9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

履修上の注意事項

- ア．履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。
- イ．保育科第三部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に3年以上（5年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学（講義）」	2単位
	別表Aに示す最低単位数	

「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。

詳細については別表Aを参照し、履修のうえで注意すること。

幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 1	8単位以上
	必修科目	58単位
	選択必修科目	9単位以上

- 1 基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む8単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学（実技）」または「健康・スポーツ科学（実技）」1単位、計5単位を含む8単位以上の修得が必要である。

必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Bを参照し、履修等注意すること。

保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。

児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。

指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業者は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。

なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

- ウ．幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。
- エ．免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。
- オ．その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表A 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成 25、24、23 年度入学者】

区分	免許法施行規則に規定された科目名	保育科第三部で開設している授業科目名	開設単位数		最低修得単位数		
			必修	選択			
教科に関する科目	国語	日本語（読解と表現）		2	4		
	算数	算数		2			
	生活	生活概論		2			
	音楽	音楽教育 A		1			
		音楽教育 B				1	
		器楽 A				1	
		器楽 B				1	
	図画工作	造形 A		1			
		造形 B				1	
	体育	幼児体育 A		1			
幼児体育 B				1			
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教師・保育者論	2		2	
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		4	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育心理学		2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論		2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12	
			保育内容総論		1		
		・保育内容の指導法	保育内容・健康				2
			保育内容・人間関係				2
			保育内容・環境				2
			保育内容・言葉				2
			保育内容・表現 A				2
	保育内容・表現 B			2			
・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論			2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		2	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		2			
教育実習		教育実習		5	5		
教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		2	2		
合 計					31		

（備考）

- (ア) 幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」(短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること)を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目 4 単位、教職に関する科目 27 単位、合計 31 単位を修得しなければならない。
- (イ) 上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほか、別表Aの「開設単位数」欄で「印」を付している科目のすべてを履修しなければならない。
- (ウ) 別表Aに示す最低単位は、「教育職員免許法」第5条別表第1(1949年5月31日法律第147号、最終改正2003年法律第117号)および「同法施行規則」第5条、第6条(1954年10月27日文部省令第26号、最終改正2002年文科令第3、31号)に規定されている。

別表B 保育士資格取得に必要な単位

【平成25、24、23年度入学者】(必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示 別表第1による教科目		指定 単位数	保育科第三部で 開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業 形態	必修	授業科目	授業 形態	必修	選択	
保育の本 質・目的 に関する 科目	保育原理	講義	2	保育原理A	講義	2		全 科 目 必 修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		2	
保育の対 象の理解 に関する 科目	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2		
	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		
	保育の心理学	演習	1	保育の心理学	演習		1	
	子どもの保健	講義	4	子どもの保健 A	講義		2	
				子どもの保健 B	講義		2	
	子どもの保健	演習	1	子どもの保健	演習		1	
				子どもの食と栄養	演習		1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養A	演習		1	
子どもの食と栄養B				演習		1		
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		2		
保育の内 容・方法 に関する 科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容・健康	演習		2	
				保育内容・人間関係	演習		2	
				保育内容・環境	演習		2	
				保育内容・言葉	演習		2	
				保育内容・表現A	演習		2	
	乳児保育	演習	2	保育内容・表現B	演習		2	
				乳児保育A	演習		1	
	乳児保育	演習	2	乳児保育B	演習		1	
				障害児保育A	演習		1	
障害児保育	演習	2	障害児保育B	演習		1		
			社会的養護内容	演習		1		
保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		1		
保育の表 現技術	保育の表現技術	演習	4	音楽教育A	演習	1		
				器楽A	演習		1	
				造形A	演習	1		
				幼児体育A	演習	1		
保育実習	保育実習	実習	4	保育実習	実習		4	
	保育実習指導	演習	2	保育実習指導	演習		2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		2	
合 計			51	合 計		58		

【平成 25、24、23 年度入学者】(選択必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示 別表第 2 による教科目		指定 単位数 選択 必修	保育科第三部で 開設している授業科目名		開設単位数		備考	
	教科目	授業 形態		授業科目	授業 形態	必修	選択		
保育の本 質・目的 に関する 科目			15 単 位 以 上 開 設	保育原理 B	講義		2	6 単 位 以 上 選 択 必 修	
保育の対 象の理解 に関する 科目				児童心理学	講義		2		
				青年心理学	講義		2		
				臨床心理学	演習		2		
				教育相談	講義		2		
保育の内 容・方法 に関する 科目									
保育の表 現技術	保育の表現技術	演習			音楽教育 B	演習			1
					音楽教育 C	演習			1
					音楽教育 D	演習			1
					器楽 B	演習			1
				造形 B	演習		1		
				幼児体育 B	演習		1		
保育実習	保育実習 又は保 育実習	実習	2	保育実習	実習		2	2 単位以上 選択必修	
				保育実習	実習		2		
	保育実習指導 又 は保育実習指導	演習	1	保育実習指導	演習		1	1 単位以上 選択必修	
				保育実習指導	演習		1		
合 計 (開設単位数)			18 単位 以上	合 計		22 単位		9 単位 以上	

(備考)

- (ア) 保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表 B の「開設単位数」欄で 印を付している科目のすべてを履修しなければならない。〔ただし、「保育実習」「保育実習」「保育実習指導」「保育実習指導」については(イ)参照〕
- (イ) 選択必修科目については、「保育実習」「保育実習」のうち 2 単位以上、「保育実習指導」「保育実習指導」のうち 1 単位以上を含めて、9 単位以上を最低修得することとなっている。「保育実習」(2 単位)と「保育実習指導」(1 単位)を履修するか、「保育実習」2 単位と「保育実習指導」1 単位を履修するかを選択し、それ以外に、最低 6 単位を選択履修しなければならない。
選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修指導時に説明する。
- (ウ) 別表 B に示す指定単位数は、「児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」(2010 年 7 月 13 日厚生労働省告示第 278 号)に規定されている。

平成 25 (2013) 年度

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成25年度（2013年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は適当授業時間)						備考	ページ
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2						☆	15
	英語	演習		2	◆	●	2						☆	16～18
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2						☆	19
教養科目	宗教と人生	講義	2				2							20
	文学	講義		2				②		②		②		21
	色彩学	講義		2			2							22
	日本国憲法	講義		2	◆					2				24
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②			25
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②		26～28
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●		②		②		②	☆☆	29～31
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②	☆☆	

保育科第三部 平成24年度（2012年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は適当授業時間)						備考	ページ
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2						☆	
	英語	演習		2	◆	●	2						☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2						☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2							
	文学	講義		2				②		②		②		21
	色彩学	講義		2			2							23
	日本国憲法	講義		2	◆					2				24
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②			25
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②		26～28
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●		②		②		②	☆☆	29～31
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②	☆☆	

保育科第三部 平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は適当授業時間)						備考	ページ
			必修	選択			1年		2年		3年			
							I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習		2	◇		2						☆	
	英語	演習		2	◆	●	2						☆	
	コンピュータ演習	演習		2	◆		2						☆	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2							
	文学	講義		2				②		②		②		21
	色彩学	講義		2			2							24
	日本国憲法	講義		2	◆					2				25
	ジェンダー論	講義		2			②		②		②			26～28
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2	◆	●		②		②		②		29～31
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1	◇	●		②		②		②	☆☆	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1				②		②		②	☆☆	

（注意）

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※備考欄の☆☆は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

リスニングの基礎からそう復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕（長崎出版）

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。期末テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）。

《備考》

- 1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会うありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
3	場所を聞くいつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

各自、教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入し、授業には毎回必ず持って来て下さい。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。...

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話し
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	Telephone Language	電話の言葉
15	まとめor自己評価	まとめor自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	前田 美智代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活・保育関係個所で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。文章作成等による演習形式で行う。

《テキスト》

授業時に、プリント等を配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。
主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる
文章作成の目的を理解し、適切な文章が書ける。

《授業時間外学習》

- (1)新聞や本を読む習慣をつける。
- (2)感動した文章は、記録する。
- (3)図書館を活用し、力量をつける。

《成績評価の方法》

授業態度(25%)
課題提出(25%)
筆記試験(50%)

《備考》

日頃から書物に親しみ、友達と情報交換をし、読解力や文章表現力を身に着けるようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	新聞の読解	新聞記事の成り立ちを知る。 (小見出しの読み取り、本文の読み取り)
7	新聞の読解	新聞記事の要約 (意味の取り違いや漢字の読み間違いに注意する)
8	文章表現法	自分の気持ちを文字で表現する。気楽に書くための工夫 (今までの経験から、絵から言葉へ、季節とともに思い出されること)
9	文章表現法	短い文章から始める。 (200字から始める。いろいろな文章を書きながら表現することを身に着ける)
10	文章表現法	通信文(手紙とメール)その形と心 それぞれにマナーがある。
11	演習(園便りの作成)	保護者に向けた月刊園便りを作成し内容を吟味する。 わかりやすい文章とは。誤字脱字への注意
12	演習(園便りの作成)	園外保育のお知らせ分を作成する。 (目的、注意事項、持ち物、行き先、安全確保等)
13	演習(園便りの作成)	園行事についてのお知らせ文を作成する。(表現方法の工夫、わかり易さの追求)
14	演習(園便りの作成)	互いの作品を評価しあい、課題と成果を明確にする。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスマス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれら使いこなしていくための基礎的知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点 (25%)
- (2) 提出課題 (75%)

《テキスト》

・「学生のためのOffice2010&情報モラル」, noa出版

《参考図書》

- ・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 基礎, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 応用, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Word 2010 基礎, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Word 2010 応用, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft PowerPoint 2010 基礎, FOM出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の授業範囲のテキストを読むこと。
分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
- (2) 復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

- (1) 欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。
- (2) 質問等はオフィスアワーなどに来ること。授業時間直前の質問は授業開始の遅れとなるためできるだけ控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室ログオンアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎 Webメール(1)	Windowsの基本操作、e-learningシステムへの登録 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	Webメール(2)	ファイルの添付、携帯電話版Webメールの利用 メールに関するマナー
4	インターネット上の 情報検索(1)	検索サイトの利用、論理式を使った検索、検索オプションの活用 情報の信頼性の検証方法
5	インターネット上の 情報検索(2)	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
6	ワープロソフトの基礎(1)	文字書式設定、段落書式設定(インデント、タブ) 表の作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入
7	ワープロソフトの基礎(2)	前回学習範囲の演習課題
8	表計算ソフトの基礎(1)	画面説明、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数、IF関数 相対参照・絶対参照・複合参照
9	表計算ソフトの基礎(2)	COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、並べ替え
10	表計算ソフトの基礎(3)	前回・前々回学習範囲の演習課題
11	プレゼンテーションソフトの基礎(1)	画面説明、スライドデザインの設定、文字入力 ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入
12	プレゼンテーションソフトの基礎(2)	画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、色・動きの統一感 今回・前回学習範囲の演習課題
13	レポート作成のための PC活用	表紙作成、ページ設定、ページ番号設定、Excelの表・グラフの挿入
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、期末試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのようにつくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3) 講義のなかから、分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編（2005、有斐閣）

《参考図書》

- 『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
- 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
- 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）
- 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）
- 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか	(1) 少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか	(3) 高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間/男の時間(1)	アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	井上 靖				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》

各ライフステージにおける運動およびスポーツと健康生活との関係について理解を深め、豊かな人生につながる健康的なライフスタイルについて考える。

《授業の到達目標》

豊かな人生と健康的なライフスタイルとの関係について理解し、自己実現に必要なライフスキルの向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

・期末試験70%、受講態度30%とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。プリントを随時配布する。

《参考図書》

『からだことば』立川昭二 早川書房『健康と文明の人類史』マーク・N・コーエン 中本藤茂/戸沢由美子訳 人文書院『目で見える動きの解剖学』金子公宏 大修館書店『入門生理学』勝田 茂 杏林書院『スポーツ社会学』亀田佳明 世界思想社

《授業時間外学習》

授業中に紹介する図書を読み、講義内容の理解を深める。

《備考》

授業開始以降の出席(遅刻)は欠席扱いとする。ただし受講はできる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講上の注意事項等
2	高齢化社会の健康問題	各ライフステージの健康課題について理解を深める。
3	ライフスタイルと健康問題	生活習慣病について学び健康的なライフスタイルに結びつける。
4	生涯スポーツのビジョン	文明の進歩と健康問題との関係を学び、生涯スポーツの必要性について考える。
5	日本の近代化と身体	明治時代から現代まで、教育は身体をどのように捉えてきたかを学び、健康問題を考える。
6	からだことば	からだことばに現れる世代間の身体意識について学び、身体感覚について考える。
7	生体輸送のメカニズム	基礎知識を学び健康管理に結びつける。
8	運動発現のメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
9	神経・筋パワーのメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
10	神経・筋パワーのメカニズム	筋力・筋の作用と運動について理解し、自分の体力に合った運動プログラムを作成する。
11	スポーツ医学	スポーツ医学とスポーツトレーニング
12	スポーツ科学の最前線	映像によりスポーツ科学によるトップアスリートの解明を紹介。
13	幼児の運動実践例	保育所の取り組みを紹介し、幼児の運動教育について考える。
14	スポーツを創造する人間	厳しい自然をスポーツとして楽しむステージに変える人間について考える。
15	まとめ	テスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》

各ライフステージにおける運動およびスポーツと健康生活との関係について理解を深め、豊かな人生につながる健康的なライフスタイルについて考える。

《授業の到達目標》

豊かな人生と健康的なライフスタイルとの関係について理解し、自己実現に必要なライフスキルの向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

・期末試験70%、受講態度30%とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。プリントを随時配布する。

《参考図書》

『からだことば』立川昭二 早川書房『健康と文明の人類史』マーク・N・コーエン 中本藤茂/戸沢由美子訳 人文書院『目で見える動きの解剖学』金子公宏 大修館書店『入門生理学』勝田 茂 杏林書院『スポーツ社会学』亀田佳明 世界思想社

《授業時間外学習》

授業中に紹介する図書を読み、講義内容の理解を深める。

《備考》

授業開始以降の出席(遅刻)は欠席扱いとする。ただし受講はできる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講上の注意事項等
2	高齢化社会の健康問題	各ライフステージの健康課題について理解を深める。
3	ライフスタイルと健康問題	生活習慣病について学び健康的なライフスタイルに結びつける。
4	生涯スポーツのビジョン	文明の進歩と健康問題との関係を学び、生涯スポーツの必要性について考える。
5	日本の近代化と身体	明治時代から現代まで、教育は身体をどのように捉えてきたかを学び、健康問題を考える。
6	からだことば	からだことばに現れる世代間の身体意識について学び、身体感覚について考える。
7	生体輸送のメカニズム	基礎知識を学び健康管理に結びつける。
8	運動発現のメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
9	神経・筋パワーのメカニズム	運動の学習および運動技術の習得に活かすことができる。
10	神経・筋パワーのメカニズム	筋力・筋の作用と運動について理解し、自分の体力に合った運動プログラムを作成する。
11	スポーツ医学	スポーツ医学とスポーツトレーニング
12	スポーツ科学の最前線	映像によりスポーツ科学によるトップアスリートの解明を紹介。
13	幼児の運動実践例	保育所の取り組みを紹介し、幼児の運動教育について考える。
14	スポーツを創造する人間	厳しい自然をスポーツとして楽しむステージに変える人間について考える。
15	まとめ	テスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くなやかな美しい体をつくる。

～をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	～ Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	～ Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『からだロジック入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べることを指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	アタック、サーブ、フォーメーション	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーションを体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
14	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。
15	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試.などの進め方を体得する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	井上 靖				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通してコミュニケーション力および自己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館
 「からだロジック入門」宮下充正 大修館
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《授業時間外学習》

・授業で紹介するストレッチを週3日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《成績評価の方法》

・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《備考》

・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
 ・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項 ・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び2人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・2人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム(ダブルス)の進め方 ・2人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	井上 眞美子				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。～をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	～ Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	～ Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	宮川 和三				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	全学年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『からだロジック入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べたことを指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	アタック、サーブ、フォーメーション	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブ、フォーメーションを体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
14	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
15	学習のまとめ、ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。

平成 25 (2013) 年度入学者

学科教育科目

平成25年度(2013年度) 学年暦〔I期〕

25年	日		月		火		水		木		金		土		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	7	8 ① I期授業開始	9 ①	10 ①	11 ①	12 ①	13 ①	14 ①	15 ①	16 ①	17 ①	18 ①	19 ①	20 ①	21 ①
4月	14	15 ②	16 ②	17 ②	18 ②	19 ②	20 ②	21 ②	22 ②	23 ②	24 ②	25 ②	26 ②	27 ②	28 ②
	21	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26 ③	27 ③	28 ③	29 ③	30 ③	31 ③	1 ③	2 ③	3 ③	4 ③
	28	29 昭和の日	30 ④ 月曜日科目授業日	1 ④	2 ④	3 ④	4 ④	5 ④	6 ④	7 ④	8 ④	9 ④	10 ④	11 ④	12 ④
	5	6 こどもの日	7 ④ 振替休日	8 ⑤	9 ⑤	10 ⑤	11 ⑤	12 ⑤	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17 ⑤	18 ⑤	19 ⑤
5月	12	13 ⑤	14 ⑤	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑥	18 ⑥	19 ⑥	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24 ⑥	25 ⑥	26 ⑥
	19	20 ⑥	21 ⑥	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑦	25 ⑦	26 ⑦	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31 ⑦	1 ⑦	2 ⑦
	26	27 ⑦	28 ⑦	29 ⑧	30 ⑧	1 ⑧	2 ⑧	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑧	6 ⑧	7 ⑧	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑧
	2	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑨	8 ⑨	9 ⑨	10 ⑨	11 ⑨	12 ⑨	13 ⑨	14 ⑨	15 ⑨	16 ⑨
6月	9	10 創立記念日	11 ⑨	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑩	15 ⑩	16 ⑩	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑩	20 ⑩	21 ⑩	22 ⑩	23 ⑩
	16	17 ⑨ オープンキャンパス	18 ⑩	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑪	22 ⑪	23 ⑪	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪	27 ⑪	28 ⑪	29 ⑪	30 ⑪
	23	24 ⑩	25 ⑪	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑫	29 ⑫	30 ⑫	1 ⑫	2 ⑫	3 ⑫	4 ⑫	5 ⑫	6 ⑫	7 ⑫
	30	1 ⑪	2 ⑫	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑬	6 ⑬	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑬	10 ⑬	11 ⑬	12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬
	7	8 ⑫	9 ⑬	10 ⑭	11 ⑭	12 ⑭	13 ⑭	14 ⑭	15 ⑭	16 ⑭	17 ⑭	18 ⑭	19 ⑭	20 ⑭	21 ⑭
7月	14	15 海の日	16 ⑭	17 ⑮	18 ⑮	19 ⑮	20 ⑮	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28 ⑮
	21	22 ⑬ オープンキャンパス	23 ⑮	24 ⑯	25 ⑯	26 ⑯	27 ⑯	28 ⑯	29 ⑯	30 ⑯	1 ⑯	2 ⑯	3 ⑯	4 ⑯	5 ⑯
	28	29 ⑮	30 予備日	31 補講日	1 補講日	2 補講日	3 補講日	4 補講日	5 補講日	6 補講日	7 補講日	8 補講日	9 補講日	10 補講日	11 補講日
	4	5 補講日	6 補講日	7 補講日	8 補講日	9 補講日	10 補講日	11 補講日	12 補講日	13 補講日	14 補講日	15 補講日	16 補講日	17 補講日	18 補講日
8月	11	12 補講日	13 補講日	14 補講日	15 補講日	16 補講日	17 補講日	18 補講日	19 補講日	20 補講日	21 補講日	22 補講日	23 補講日	24 補講日	25 補講日
	18	19 補講日	20 補講日	21 補講日	22 補講日	23 補講日	24 補講日	25 補講日	26 補講日	27 補講日	28 補講日	29 補講日	30 補講日	31 補講日	1 補講日
	25	26 補講日	27 補講日	28 補講日	29 補講日	30 補講日	31 補講日	1 補講日	2 補講日	3 補講日	4 補講日	5 補講日	6 補講日	7 補講日	8 補講日
9月	1	2 補講日	3 補講日	4 補講日	5 補講日	6 補講日	7 補講日	8 補講日	9 補講日	10 補講日	11 補講日	12 補講日	13 補講日	14 補講日	15 補講日
	8	9 補講日	10 補講日	11 補講日	12 補講日	13 補講日	14 補講日	15 補講日	16 補講日	17 補講日	18 補講日	19 補講日	20 補講日	21 補講日	22 補講日

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

25年	日		月		火		水		木		金		土		
9月	8	オープンキャンパス	9		10		11		12		13	①	14	①	
	15		16	敬老の日	17	①	18	①	19	①	20	②	21		
	22		23	秋分の日	24	②	25	②	26	②	27	③	28		
	29		30	②	1	③	2	③	3	③	4	④	5		
	6		7	③	8	④	9	④	10	④	11	⑤	12		
10月	13		14	体育の日	15	⑤	16	⑤	17	⑤	18	⑥	19		
	20		21	④	22	⑥	23	⑥	24	⑥	25	⑦	26		
	27		28	⑤	29	⑦	30	⑦	31	⑦	1	⑧	2		
	3	文化の日	4	振替休日	5	⑥	月曜日科目授業日	6	⑧	7	⑧	8	⑧	9	⑧
	10	大学祭	11	保育所見学観察実習 大学祭後片付け	12		保育所見学観察実習	13		14		15		16	
11月	17		18	保育所見学観察実習	19		保育所見学観察実習	20		21		22		23	
	24		25	⑦	26	⑧	27	⑨	28	⑨	29	⑨	30		
	1		2	⑧	3	⑨	4	⑩	5	⑩	6	⑩	7		
	8		9	⑨	10	⑩	11	⑪	12	⑪	13	⑪	14		
	15		16	⑩	17	⑪	18	⑫	19	⑫	20	⑫	21		
12月	22		23	天皇誕生日	24	⑫	25	⑪	月曜日科目授業日	26	⑬	27		28	
	29		30		31		1	元旦	2		3		4		
	5		6	⑫	7	⑬	8	⑬	9	⑭	10	⑬	11		
	12		13	成人の日	14	⑭	15	⑭	16	⑮	17	⑮	18		
	19	センター試験	20	⑬	21	⑮	22	⑮	23	⑭	24	⑭	25		
26年 1月	26		27	⑮	28	予備日	29	補講日	30	補講日	31	⑮	1		
	2		3		4	補講日	5		6		7		8		
	9		10		11	建国記念の日	12		13		14		15		
	16		17		18		19		20		21		22		
	23		24		25		26		27		28		29		
2月	2		3		4		5		6		7		8		
	9		10		11		12		13		14		15		
	16		17		18		19		20		21		22		
	23		24		25		26		27		28		29		
	2		3		4		5		6		7		8		
3月	9		10		11		12		13		14		15		
	16		17		18		19		20		21		22		
	23	卒業式	24		25		26		27		28		29		
	30		31												

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成25年度（2013年度）入学者対象

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		幼稚園 教諭二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は適当に授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
学	音楽教育A	演習	1						2						
	音楽教育B	演習	1	◆	○					2					
	音楽教育C	演習	1		○						2				
	音楽教育D	演習	1		○							2			
	器楽A	演習	1	◆	●	2									37
	器楽B	演習	1	◆	○			2							38
	造形A	演習	1						2						
	造形B	演習	1	◆	○					2					
	幼児体育A	演習	1		◆	○				2					
	幼児体育B	演習	1	◆	○					2					
科	算数	講義	2	◇										不開講	
	生活概論	講義	2	◇										不開講	
	子どもの保健ⅠA	講義	2		●			2							39
	子どもの保健ⅠB	講義	2		●				2						
	子どもの保健Ⅱ	演習	1		●						2				
	子どもの食と栄養A	演習	1		●				2						
	子どもの食と栄養B	演習	1		●					2					
	家庭支援論	講義	2		●							2			
	社会福祉	講義	2		●							2			
	相談援助	演習	1		●							2			
教	児童家庭福祉	講義	2		●	2									40
	教育原理	講義	2								2				
	保育原理A	講義	2			2									41
	保育原理B	講義	2		○							2			
	社会的養護	講義	2		●	2									42
	保育相談支援	演習	1		●							2			
	教育実習	実習	5	◆					5						43～44
	保育実習Ⅰ	実習	4		●			4							45～46
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		●			2							47～48
	保育実習Ⅱ	実習	2		○							2			
育	保育実習指導Ⅱ	演習	1		○							1			
	保育実習Ⅲ	実習	2		○							2			
	保育実習指導Ⅲ	演習	1		○							1			
	保育の心理学Ⅰ	講義	2			2									49
	保育の心理学Ⅱ	演習	1		●						2				
	教育心理学	講義	2	◆							2				
	児童心理学	講義	2	◆	○					2					
	青年心理学	講義	2		○			2							50
	臨床心理学	演習	2		○					2					☆
	教育制度論	講義	2	◆							2				
目	教師・保育者論	講義	2		○							2			
	保育課程総論	講義	2			2									51
	保育内容総論	演習	1	◆	●			2							52
	保育内容・健康	演習	2	◆	●				2						☆
	保育内容・人間関係	演習	2	◆	●					2					☆
	保育内容・環境	演習	2	◆	●					2					☆
	保育内容・言葉	演習	2	◆	●			2							☆
	保育内容・表現A	演習	2	◆	●					2					☆
	保育内容・表現B	演習	2	◆	●					2					☆
	保育方法論	講義	2	◆				2							54
目	社会的養護内容	演習	1		●			2							55
	乳児保育A	演習	1		●	2									56
	乳児保育B	演習	1		●						2				
	障害児保育A	演習	1		●				2						
	障害児保育B	演習	1		●						2				
	教育相談	講義	2	◆	○						2				
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	◆	●							2			☆

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。 ●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。
 ※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	器楽A				
担当者氏名	井上 朋子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育者として必要なピアノの基礎技能を養うことを目的とし、個人レッスン形式で進めます。具体的に、「器楽A」では、保育現場で用いられている子どもの歌の弾き歌いやリズム曲（マーチ、スキップ、ギャロップ等）を中心に学習します。

《テキスト》

『うたのメルヘン』（共同音楽出版社）、
『ぴあのおってすばらしい』（共同音楽出版社）

《参考図書》

『おんがく玉手箱』（共同音楽出版社）
その他資料等は、必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

楽譜の読み方及びピアノの基礎的な奏法を習得する。
子どもの歌のレパートリーをジャンル別（季節・生活等）につくる 弾き歌いでは、のびのびと歌いながらピアノ伴奏を弾きことができる。
リズム曲（スキップ、ギャロップ、マーチ、ワルツ等）では、動きに合った演奏表現ができる。

《授業時間外学習》

毎回、課題曲を指示します。各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

期中に計16曲を修了しておくこと。
中間及び研究発表会(60%)と平常点(40%)の総合評価。

《備考》

1. 講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
2. 教室内での飲食厳禁。
3. 爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『器楽A』における授業内容の説明	指導者の紹介と個々の進度調査及び個人指導。
2	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
3	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
4	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
5	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
6	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
7	中間発表会	演奏会形式で個人発表する。
8	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
9	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
10	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
11	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
12	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
13	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
14	個人レッスン	『うたのメルヘン』、『ぴあのおってすばらしい』、プリント教材より、個々の進度に応じた課題曲を学習する。
15	研究発表会	演奏会形式で個人発表する。

《学科教育科目》

科目名	器楽B				
担当者氏名	田中 敬子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

期に引き続き、保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を更に発展させる形で学びます。それぞれの進捗状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技術を身につけます。子どもの歌の弾きうたいは勿論、就職試験を見据えたピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も弾けるようにしていきます。

《授業の到達目標》

コードネームから容易に伴奏付けができる。
 ピアノを弾きながらうたうということが余裕を持ってできる。
 読譜力を身に付ける。
 ピアノ楽曲や、様々な形態の曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》

毎回の指定曲及び 期の最終段階を修了。 中間及び研究発表会にて規定の課題を修了。 授業態度が真面目であり毎回正しく記入された受講進度表を提出。 実技点(60%)と授業点(40% ~ 及び備考1~2)の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』(共同音楽出版社)
 『ぴあのってすばらしい』(共同音楽出版社)
 その他、必要に応じて指示します。

《参考図書》

《授業時間外学習》

【予習】毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
 【復習】毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1.身だしなみ等(特に爪)。2.講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁(発覚時は減点)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『器楽B』における授業内容の説明	指導者の紹介と個々の進捗調査及び個人指導。
2	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
3	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
4	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
5	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
6	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から中間発表会の課題曲を指導。 未履修曲の点検。
7	中間発表会	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から4階ML教室へ全員集まり、演奏会形式でグランドピアノにて実施(個人発表)する。
8	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
9	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
10	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
11	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から個々の進捗に応じて指導。
12	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から研究発表時の課題曲を指導。 未履修曲の点検。
13	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。 未履修曲の点検。
14	研究発表会	『うたのメルヘン』『ぴあのってすばらしい』から中間(第7回)発表会と同様に、演奏会形式でグランドピアノにて実施する。
15	『器楽B』の総まとめ	未履修曲の点検及びアンケート実施。次年度に関わる音楽科目への準備。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 A				
担当者氏名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

子どもの保健 Aを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『よくわかる子どもの保健』
 ミネルヴァ書房 竹内義博・大矢紀昭 編

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
 【ten! 『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴のレポート（50％）
- ・学期末テスト（50％）

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することが出来て、説明することができる。（VTR視聴予定）
5	新生児の成長発達	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
7	乳児の成長発達	乳児期全般の成長発達と、各時期ごとの主な体と心の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達	7回目で学んだ『乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体と心』の発達が理解できているか、VTRを視聴しながら確認する。
9	幼児の成長発達	幼児が健全に成長できるように幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解り、その観察結果が異常か正常か、が解ることができる。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	児童家庭福祉				
担当者氏名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷，児童家庭福祉と保育，児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し，児童家庭福祉の現状を把握し，その課題について考察する。

《テキスト》

『児童家庭福祉』流石智子編，あいり出版，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2012』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2012

《授業の到達目標》

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
 児童家庭福祉の歴史の変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に生かすことができる。
 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

授業前にテキストを読んでおいてください。

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の意義	現代社会と児童家庭福祉，児童家庭福祉の理念と概念
2	子どもの権利とその歴史的変遷	子どもの権利と人権，子どもの権利に関する重要な宣言，現代の子どもたちを守る条約と法律
3	保育に必要な児童家庭福祉の考え方	保育を理解するための児童家庭福祉，子どもの人権擁護と保育
4	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 1	児童家庭福祉の法律と制度（児童福祉法・児童に関する法律その他）
5	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 2	児童家庭福祉行財政とその実施機関
6	児童福祉施設と援助者	子どもの生活を保障する児童福祉施設，児童家庭福祉を支える専門職とその実践者
7	少子社会と子どもの発達保障	少子化と子育て支援の現状，母子保健と子どもの発達保障
8	子どもの健全育成	児童健全育成と児童館，放課後児童健全育成事業等，多様な保育ニーズと子育て支援
9	子育てと社会的養護 1	現代家庭の抱える子育て問題，子育て家庭と子ども虐待，ドメスティックバイオレンスと現代家庭
10	子育てと社会的養護 2	障害のある子どもたちへの対応
11	子育てと社会的養護 3	少年非行に陥る子どもたちへの対応（視聴覚教材の使用）
12	子育てと社会的養護 4	ひとり親家庭の子どもたち
13	児童家庭福祉の動向	次世代育成支援と児童家庭福祉の課題と展望，保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワークの充実
14	諸外国の子育て事情	諸外国の子育て支援の動向，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容（視聴覚教材の使用）
15	まとめ	保育士の役割と児童家庭福祉，授業内容と「保育実習」との関わり

《学科教育科目》

科目名	保育原理 A				
担当者氏名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。
 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『新・保育原理(第2版) - すばらしき保育の世界 - (みらい 2012)』『最新保育資料集2011』森上史朗編(ミ礼ガア書房 2011)
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレール館 2008)

《参考図書》

『フレールの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984), 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『セソ・オブ・ワンダー』 レイチェル・カーソ著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリティカル進化論』 道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省(フレール館 2008), またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限りで行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持ってほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意義	保育とは何か (全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある)
2	保育の意義を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭 - 保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育施設 - 社会的意義
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針 - 保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《学科教育科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	藤本 政則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての保育士の役割についても理解する。

《テキスト》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《参考図書》

《授業の到達目標》

保育所以外の児童福祉施設における処遇を体系的に理解する。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
 授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が3割、「2」が7割とする。

1. 授業態度、保育士資格取得に対する意欲等の評価。2. 筆記試験による評価（単位取得に必要な知識等を評価。試験問題は主に語句説明ならびに論述問題によって構成。）

《備考》

各講義の開始時に出欠の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
 授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。
2	家庭や社会の役割	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。
3	家庭や社会の役割	社会の役割と児童養護について考える。
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する
5	児童養護の歴史 - 欧米の児童養護の変遷 -	欧米における児童養護の変遷を理解する。
6	児童養護の歴史 - 日本の児童養護の変遷 -	日本における児童養護の変遷を理解する。
7	児童養護の領域 - 養護系施設 -	児童養護施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
8	児童養護の領域 - 養護系施設 -	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
9	児童養護の領域 - 障がい系施設 -	知的障害児施設や盲ろうあ児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
10	児童養護の領域 - 障がい系施設 -	肢体不自由児施設や重症心身障害児施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
11	児童養護の領域 - その他の施設 -	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
12	児童養護の領域 - その他の施設 -	情緒障害児短期治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。
13	家庭養護としての里親養育	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。
14	家庭養護としての里親養育	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	三井 圭子、青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学ぶ。見学観察実習の事前授業で、幼児の年齢による成長発達過程を理解し、遊びの内容を知り、幼児の姿をどう捉え、教師がどのようにかわるかを学ぶ。子どもを見る視点、保育を見る視点を知る。見学観察実習では現場を知り、幼児教育について理論と実践を繋げ、自分が身につけるべき知識技能を知る。記録、指導計画を書く力をつけ、常に課題を持ち、参加指導実習に向け保育力をつける。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。幼稚園での四季を通しての遊び、行事、触れ合い保育等様々な生活、遊びの内容を知り、その時々に応じた内容を考える。教師の一日の仕事、役割、援助の仕方から、幼稚園生活の流れを学ぶ。観察記録の書き方を知り、自らの課題を持つ。子どもの日々の姿から、環境構成の、子どもの活動、教師の援助を考え、指導計画作成に繋げる。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%
 授業中の発表内容、態度 20%
 実習園の評価、実習ノート 70%

《テキスト》

幼稚園教育要領解説、実習の手引き（授業で配布）、『保育実技』久富陽子編 萌文書林、『幼稚園教育実習』玉置哲淳・島田ミチコ監修 建帛社、必要に応じてプリント有

《参考図書》

適宜授業中に紹介する

《授業時間外学習》

色々な教科の実践的な保育技術を身に付け、活かす。数多くの絵本、手遊び、子どもの好きな遊び、教材、遊び用具等を常に自分で調べ、考えて研究しておく。記録を書く、指導計画を書くことを意識する。子どもの楽しむことはどんなことか、保育のレパートリーをふやし、積極的に実践する。常に、ハサミ、のり、セロテープ、ホッチキス等準備し、持参する。

《備考》

実習を受ける資格条件を遵守し、積極的、意欲的に授業に取り組み、遅刻早退欠席をしないようにする。提出物は必ず提出。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	保育実習
2	保育実習	保育実習
3	保育実習	保育実習
4	保育実習	保育実習
5	教育実習の考え方・心得 授業の進め方	教育実習について理解し、幼稚園教諭二種免許について知る。実習への心構えを学び、課題を持つ。子どもの前に立ち、話をする事を知り、常にその立場を考えておく。
6	教育実習の意義 見学観察実習	幼稚園の現場への理解と見学観察実習の意味を知る。保育の教材の絵本等について理解し、読み聞かせ等をする。
7	幼稚園教育の基本 幼稚園教諭の仕事・役割	幼稚園教育要領の理解と幼児教育の基本を知る。幼稚園教諭の仕事、役割を子どもとの生活を共に過ごす姿から理解する。 VTR視聴
8	幼稚園の生活を知る 一日の流れと子どもの姿	子どもが1日の生活をどのようにしているか。1年間の生活、遊びを通し、どのような学びがあるかを知る。3, 4, 5歳児の遊びを知り、心を動かす遊びを考える。
9	子どもの遊びと環境構成 幼児理解	子どもの遊びから、環境構成のあり方を知る。3, 4, 5歳児の成長発達の違いを知る。
10	子どもを見る視点 保育を見る視点	遊びの中の子どもの姿を見ながら、子どもの心、感情を捉える。保育の中で子どもと保育者とのかわりや、保育者の援助を学ぶ。 DVD視聴
11	見学観察実習への課題	見学観察実習で、幼稚園での保育の中で、何を観察し、どんなことを学び、どんなことを知りたいか明確に意識し、自分の課題を考える。
12	保育実習	保育実習
13	保育実習	保育実習
14	保育実習	保育実習
15	保育実習	保育実習

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	三井 圭子、青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を学ぶ。見学観察実習の事前授業で、幼児の年齢による成長発達過程を理解し、遊びの内容を知り、幼児の姿をどう捉え、教師のどのようにかかわるかを学ぶ。子どもを見る視点、保育を見る視点を知る。見学観察実習では現場を知り、幼児教育について理論と実践をつなげ、自分が身につけるべき知識技能を知る。記録、指導計画を書く力をつけ、常に課題を持つ。参加指導実習への保育力をつける。

《授業の到達目標》

年齢による、身体と精神の成長発達を理解する。
 幼稚園の四季を通じた生活、遊びを具体的に知る。
 環境構成、幼児の活動、教師の援助等を学び、実習記録を書き方を学ぶ。
 模擬保育を通して、子どもと楽しめる遊びを考え、実践力をつける。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%
 授業中の発表内容、態度 20%
 実習園の評価・実習ノート 70%

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手引き』（授業で配布）、
 『保育実技』久富陽子編 萌文書林、『幼稚園教育実習』玉置哲淳・島田ミチコ監修 建帛社、必要に応じてプリント有

《参考図書》

適宜授業中に紹介する

《授業時間外学習》

図書館等で数多くの絵本、紙芝居に接し実践に活かす。保育雑誌などから保育の教材の研究をする。色々な教科で身に付いたことを実践に活かし、子どもが楽しむ事はどのようなことが常に考えておきましょう。身近に園児の遊ぶ姿から、四季の遊びを知り、自然物に興味を持つ。常にハサミ、のり、テープ、ホッチキス等準備をし、持参する。

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。
 提出物は必ず提出し、積極的に発表し意欲を持って授業に臨む。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	保育実習
2	保育実習	保育実習
3	保育実習	保育実習
4	保育実習	保育実習
5	保育実習	保育実習
6	保育実習	保育実習
7	保育実習	保育実習
8	見学観察実習の学ぶ課題と、観察の視点	見学観察実習で学びたいことを明確にする。幼稚園の生活を知る。
9	参加指導実習園の把握	参加指導実習園を選択し、実習をさせていただく園を決める。
10	幼稚園の年間行事を知る	1年間の幼稚園の生活を知り、行事について考え、そのあり方、工夫や方法を知る。DVD視聴
11	観察記録の書き方を知る指導計画	幼稚園教育過程から、年、期、月、週、日の指導計画を知る。それにより、日々の保育の内容、ねらいがあることを知る。
12	観察記録の書き方を知る環境構成	幼稚園の周辺、園庭、保育室から環境構成と記録の書き方を学ぶ。準備物、教材、遊具、用具、配置、数量等の環境構成を知る。
13	観察記録の書き方を知る子どもの姿・活動	保育環境によってどのように子どもが活動し、どのように心身の発達や成長が有り、学びがあるか、子どもの姿の捉え方と、記録を書く事を学ぶ DVD視聴
14	観察記録の書き方を知る教師の援助	子どもの姿、活動から、教師のかかわりや援助の仕方を学び教師の意図、思いを汲み取る事の重要性を学ぶ。観察記録にどのように表現して教師の援助を書くか学ぶ。
15	子どもの楽しむ遊びの指導計画を書く	観察記録を書く事から、1つのクラス活動としての遊びの指導計画を書く。ねらい、内容、保育の展開を考え、自分の指導計画を作成し、説明をする。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》

保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《テキスト》

決まったものではありません。実習の中で自分で探すこと。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先の先生方にも紹介してもらう。

《授業の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ 4. 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《授業時間外学習》

積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレポーターを増やしておくこと。体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止。実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書くこと。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導 の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)。なお保育実習 は保育所2週間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

ほう・れん・そうを忘れないこと(実習園にも大学にも)。実習内容については、各実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	各実習園で実習スタイルは様々です。
2	保育実習	年齢で言えば、各年齢を順番に回ったり、ひとつの年齢でずっと留まったり。各実習園で指示を出されますので、よく聞いてください。
3	保育実習	(保育実習中)
4	保育実習	(保育実習中)
5	保育実習	(保育実習中)
6	保育実習	(保育実習中)
7	保育実習	(保育実習中)
8	保育実習	(保育実習中)
9	保育実習	(保育実習中)
10	保育実習	保育の補助を体験する中で、PDCAサイクルの重要性に少しでも気付く。
11	保育実習	保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理についての理解を深める。
12	保育実習	(参考) 保育所見学観察実習
13	保育実習	(保育実習中)
14	保育実習	2週間、10日間頑張ってください。
15	保育実習	質問があれば、積極的に聞くこと。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力				

《授業の概要》

保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《テキスト》

決まったものではありません。実習の中で自分で探してください。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先の先生方にも紹介してもらう。

《授業の到達目標》

1. 保育所の役割や機能について具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ 4. 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《授業時間外学習》

積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレパートリーを増やしておくこと。体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止。実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書くこと。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導 の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)
 なお保育実習 は保育所2週間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

ほう・れん・そうを忘れないこと(実習園にも大学にも)。実習内容については、各実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	各実習園で実習スタイルは様々です。
2	保育実習	年齢で言えば、各年齢を順番に回ったり、ひとつの年齢でずっと留まったり。各実習園で指示を出されますので、よく聞いてください。
3	保育実習	質問があれば、積極的に聞くこと。
4	保育実習	2週間、10日間頑張ってください。
5	保育実習	(保育実習中)
6	保育実習	(参考) 保育所見学観察実習
7	保育実習	保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理についての理解を深める。
8	保育実習	保育の補助を体験する中で、PDCAサイクルの重要性に少しでも気付く。
9	保育実習	(保育実習中)
10	保育実習	(保育実習中)
11	保育実習	(保育実習中)
12	保育実習	(保育実習中)
13	保育実習	(保育実習中)
14	保育実習	(保育実習中)
15	保育実習	(保育実習中)

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

保育実習（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習のための事前・事後指導を行う。

《授業の到達目標》

事前指導 保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導、実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習に備える。

《成績評価の方法》

この授業は、全出席を前提とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導の評価を加え評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習指導	保育実習とは
2	保育実習指導	保育所の概要と実習の様子（視聴覚教材）
3	保育実習指導	保育所実習希望受付 内諾について
4	保育実習指導	保育所の施設設備、機能の概要
5	保育実習指導	保育士の職務内容・職業倫理 個人票記入
6	保育実習指導	乳幼児の姿（視聴覚教材）
7	保育実習指導	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）
8	保育実習指導	実習課題の作成 実習記録について（観察の視点）
9	保育実習指導	実習記録について
10	教育実習指導	教育実習の考え方
11	教育実習指導	教育実習の意義 見学観察実習
12	教育実習指導	幼稚園教育の基本 幼稚園教諭の仕事・役割
13	教育実習指導	幼稚園生活 一日の流れと子どもの遊び 幼児理解
14	教育実習指導	子どもを見る視点
15	教育実習指導	実習への自己の課題

《テキスト》

『よくわかる保育所実習(第三版)』百瀬ユカリ(創成社), 『実習日誌の書き方』相馬和子他編(萌文書林), 『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』久富陽子編(萌文書林)

《参考図書》

『最新保育資料集2011』森上史朗編(ミネルヴァ書房)
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館)
いずれも保育原理Aで購入済みです。あとプリントを配付するほか、文献はその都度紹介する。

《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいくよう心がける。自分の「得意ワザ」を見つけておく。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておくこと。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず学科事務室へ連絡すること。講義時は保育所での実習と考えて出席すること(服装、態度)。講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

保育実習（保育所見学観察実習 11月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

事前指導 保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習に備える。

《成績評価の方法》

この授業は、全出席を前提とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導の評価を加え評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習指導	実習課題を清書 配属園の地図の作成
2	保育実習指導	保育実習記録について
3	保育実習指導	実習準備（健康診断・実習ノート・証明写真について）
4	保育実習指導	実習園でのオリエンテーションについて（電話の掛け方、オリエンテーション記録）巡回カード記入
5	保育実習指導	細菌検査 事前学習（穴埋め問題）
6	保育実習指導	事前学習（実習でよく使われる漢字）
7	保育実習指導	実習中の留意事項（守秘義務・人権の尊重等）
8	保育実習指導	指導案について
9	教育実習指導	指導案について
10	教育実習指導	一日の観察のポイント 参加指導実習について
11	教育実習指導	幼稚園の行事
12	教育実習指導	幼稚園の生活 観察記録の書き方
13	教育実習指導	環境構成 観察記録の書き方
14	教育実習指導	教師の援助 観察記録の書き方
15	教育実習指導	子どもの遊び 指導計画を書く

《テキスト》

『よくわかる保育所実習(第三版)』百瀬ユカリ(創成社), 『実習日誌の書き方』相馬和子他編(萌文書林), 『実習に行くまえに知っておきたい保育実技』久富陽子編(萌文書林)

《参考図書》

『最新保育資料集2011』森上史朗編(ミネルヴァ書房)
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館)
いずれも保育原理Aで購入済みです。あとプリントを配付するほか、文献はその都度紹介する。

《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいくよう心がける。自分の「得意ワザ」を見つけておく。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておく。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず学科事務室へ連絡すること。講義時は保育所での実習と考えて出席すること(服装、態度)。講義中に行う実技演習には積極的に参加すること。

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学				
担当者氏名	杉田 律子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずきについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。発達障がいについて正しく理解すること。発達観さらには子ども観保育観を涵養すること。

《成績評価の方法》

第15回目に行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価30%

《テキスト》

『新保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学』
 無藤隆・藤崎真知代(編著) 北大路書房 2011

《参考図書》

『シードブック 保育の心理学』 本郷一夫(編) 建帛社 2011、『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生(編著) 福村出版 2010、『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦(編) ミネルヴァ書房 2004、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』 岡本依子著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
 また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
 まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。
 質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	エリクソンの発達理論 胎児期の発達	エリクソンの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。 胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。
5	新生児期の発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。大脳生理の基礎的事項、先天性の障害についても理解する。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。 愛着形成、社会性の発達についても理解する。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。 言語の発達
8	幼児期の発達～その1	幼児期の発達に関して、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。 自己意識の発達
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について学ぶ。 認知・思考の発達過程についても理解する
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。 道徳性の発達
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習、動機づけに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。 試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 青年のさまざまな行動の背景にある心理を理解できる
- * 青年期にある人たちの悩みや問題に向き合うことが出来る
- * 青年期にある人たちの悩みや問題について、相談に乗ったり、解決への支援が出来る

《授業時間外学習》

青少年の関係する事件や出来事、自身の周辺で生じた事件、出来事だけでなく、青少年に関するメディアからの情報をも記録しておき、授業で学んだ理論や考え方などに照らし合わせてみる。

《成績評価の方法》

試験100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション青年期とは	教員紹介 授業の進め方 子どもから大人へ 過渡期 青年性 世代性 個別性 青年期の課題
2	青年期のとらえ方	生物的現象 文化的現象 文化相対主義 通過儀礼
3	青年心理学の研究法	横断的研究 縦断的研究 調査法 実験法 テスト法 事例研究法
4	青年期前期の心的特性 1	自我の覚醒 自我の構造と機能 エゴグラム 内面化 自己概念の形成
5	青年期前期の心的特性 2	不安定性 第2次性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
6	青年期前期の心的特性 3	自主自律の要求 心理的離乳 脱衛星化 関係の再編
7	青年期中期の心的特性 1	自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的犯行 虚勢的犯行
8	青年期中期の心的特性 2	感情の論理 形式操作期 感情とは 理性と感情 アレキシシミア
9	青年期中期の心的特性 3	青少年期の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
10	青年期後期の心的特性 1	自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
11	青年期後期の心的特性 2	生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
12	青年期後期の心的特性 3	社会的人格の形成 エリクソンの斬成説 アイデンティティ(自我同一性)の確立/拡散
13	青年期後期の心的特性 4	アイデンティティの地位 モラトリアム
14	青年から成人へ	結婚 家族の形成 一家を構える 人格の変容
15	まとめ	いままで学習した内容をどの程度理解できているかを検証する

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論				
担当者氏名	黒崎 令子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を学修します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。

《授業の到達目標》

教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、20%
- (2) レポート課題等の提出物 30% (提出遅れは、減点する)
- (3) 筆記テスト50%

《テキスト》

『教育課程・保育課程論』
 神長美津子、塩谷 香 (編) 光生館 2010

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省、2008
 『保育所保育指針』 厚生労働省、2008
 『人の教育』
 小原國芳 荘司雅子 (監修) 玉川大学出版部 1976

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。

《備考》

- ・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報(新聞、ニュースなど)を常に意識して収集しておいてください。
- ・教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程(1)	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どものと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際(2)	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論				
担当者氏名	青木 好代				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育するということの総合的な内容について理解する。
 ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い、保育技術を培う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領』文部科学省
 『保育所保育指針』厚生労働省

《参考図書》

『保育内容総論』小田豊・神長美津子・西村重稀編著（光生館）

《授業の到達目標》

・保育をするということの総合的な内容について理解する。
 ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、説明することができる。
 ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《授業時間外学習》

・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
 ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
 ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《成績評価の方法》

・筆記試験 40%
 ・課題レポート 40%
 ・受講態度 20%

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育をするということ	資料「育ての心」を手掛かりに進める。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について比較検討する。
3	幼児理解	資料や事例、スライドにより講義・演習を行い幼児理解について学ぶ。
4	幼児期の遊びと学び	遊びの中の学びや遊びを通しての総合的指導について、資料やスライドにより学ぶ
5	発達理解	テキストやスライドにより、幼児の発達理解について学ぶ。
6	事例研究	(ビデオ視聴)3歳児の園生活(前半)
7	事例研究	(ビデオ視聴)3歳児の園生活(後半)
8	事例研究	(ビデオ視聴)4歳児の園生活
9	事例研究	(ビデオ視聴)5歳児の園生活
10	子どもの主体性と保育者の計画	事例(絵本)を教材にしなが、子どもの主体性と保育者の計画について学ぶ。
11	保育内容の変遷	保育内容の歴史の変遷
12	保育内容の変遷	保育内容の歴史の変遷
13	幼・保・小の交流	交流の意義・目的について
14	幼・保・小の交流	交流の成果と課題
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉				
担当者氏名	米田 妙子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

ことばは日常の生活の中で、人との関わりの中で獲得される。そのことばを使って人との絆をもち、ものを認識し、思考し、想像力や創造力を育み、人間として成長していく。そんな重大な機能をもつ「ことば」を、乳幼児はどのように獲得していくのかを学習し、指導や支援のあり方を考えていきたい。

《テキスト》

『保育内容・言葉』阿部明子編著（建帛社）
 『保育所保育指針』
 『幼稚園教育要領』

《参考図書》

必要に応じ、資料を配布する。

《授業の到達目標》

- ・領域「言葉」に示された「ねらい」「内容」を理解する。
- ・ことばの機能を理解し、その重要性を認識する。
- ・ことばの獲得と母子相互作用の関係を理解する。
- ・ことばを獲得していく道筋を理解し、子どもとのかかわり方を身につける。
- ・絵本や昔ばなし等の文化財から得るものを理解する。
- ・パネルシアターを作製し、演じ方を習得する。

《授業時間外学習》

- ・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業内容を再確認すること。
- ・子どもに関するニュース・記事、「ことば」に関するニュース・記事を記録しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・製作用具は必ず用意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	・オリエンテーション ・領域「言葉」について	講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい・内容を理解する。
2	ことばの機能について	人間を特徴づける「ことば」の機能とはどのようなものかを考えてみる。
3	ことばと子どもの発達 母子相互作用について	子どもの発達にとって、母子相互作用がいかに重要であることを認識する。
4	ことばと子どもの発達 ことばの獲得	発達段階第1期におけることばの獲得の過程やかかわり方を理解する。
5	ことばと子どもの発達 ことばの獲得	発達段階第2期におけることばの獲得の過程やかかわり方を理解する。
6	ことばと子どもの発達 ことばの獲得	発達段階第3、第4期におけることばの獲得の過程やかかわり方を理解する。
7	ことばと子どもの発達 ことばの獲得	発達段階第5、第6期におけることばの獲得の過程やかかわり方を理解する。
8	文化財とのかかわり 絵本について	絵本のもつ力・魅力を知り、絵本のよみかかせの基本等を学ぶ。
9	文化財とのかかわり 昔ばなしについて	昔ばなしの特徴や昔ばなしからのメッセージを知る。
10	文化財とのかかわり パネルシアター作製	パネルシアターの作り方、題材の選び方等を習得し、感性を養う。
11	文化財とのかかわり	パネルシアターを完成させ、演じ方も習得する。
12	ことばの周辺 ことばの問題	気になることばの問題を認識し、かかわり方を探る。
13	ことばの教育について	生活体験、話しことばや聞く力の重要性を認識する。
14	ことばの教育について	就学前の耕しとしてのとりくみを認識する。
15	まとめ	授業のふり返しおよび理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育方法論				
担当者氏名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。

過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。

自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10％）と筆記試験（90％）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著(北大路書房 2009)
『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳(ゆみる出版 2005), 『マインド・ストーム』シモア・バート著 奥野貴世子訳(未来社 1995), 『幼稚園教育指導資料第3集幼児理解と評価』文部科学省(チャイルド本社 2005), 『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省(フレーベル館 2006), その他授業中随時紹介。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください(実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等)。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触ってください。適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	特定の方法がある訳ではない。(全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある)
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レッジョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互恵性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容				
担当者氏名	藤本 政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育 A				
担当者氏名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

1. 児童の発達について基本的な知識・理論を学ぶ。
2. 乳児保育の実施機関である保育所・乳児院・家庭的保育について知り、その保育内容を学ぶ。
3. 乳児保育の歴史・現状・課題を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・ 援助活動の基礎となる乳児の発達の道すじを理解する。
- ・ 保育所・乳児院・家庭的保育の違いから目的や役割を理解する。
- ・ 乳児保育の歴史を知り、乳児保育が社会の流れと共に変遷していることを理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、作品・レポート（20％）、授業態度（20％）

《テキスト》

「乳児の生活と保育」ななみ書房 共著
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「乳児保育新時代」ひとなる書房 乳児保育研究会編
 「乳児保育 演習と講義」金子保 クオリティケア
 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所

《授業時間外学習》

- ・ 演習課題については必ず作成し提出する。
- ・ 地域社会や身近な環境において乳児の姿を観察する。
- ・ 教科書の指定した範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。

《備考》

- ・ 皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・ 明確な理由のない遅刻・欠席・早退は厳重にチェックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意 乳児の概念（赤ちゃんとの出会い＝ベビー人形）
2	乳児保育の概念	乳児保育とは何か（乳児保育の内容）
3	乳児保育の歴史	女性労働と乳児保育の関わり - 時代の流れと共に変遷する乳児保育 -
4	乳児保育の発達	0歳児前半期の発達の道すじと特徴 （新生児～6ヶ月まで）
5	乳児保育の発達	0歳児後半期の発達の道すじと特徴 （6ヶ月～1歳半まで）
6	乳児保育の発達	1歳児の発達の道すじと特徴
7	乳児保育の発達	2歳児の発達の道すじと特徴
8	乳児保育の一体	保育所・乳児院・家庭的保育での一日の過ごし方 （それぞれの施設の違いと役割）
9	乳児への保育者の関わり	0歳児～2歳児における保育者の関わり （発達に応じた援助活動のあり方）
10	基本的な生活習慣獲得と保育	基本的な生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱・衛生）の獲得の道すじ
11	乳児保育と計画	保育計画の構造と内容
12	乳児保育と計画	計画立案・実践・評価・反省 記録について
13	乳児の養護環境と乳児保育の課題	家庭の養護環境、家庭への支援活動 地域や関係機関との連携
14	問題行動の理解と対処	乳児期に見られる「噛みつき」「だだこね」など発達過程で見られる問題への対処
15	学習のまとめ	授業の理解度をはかる筆記試験

平成 24 (2012) 年度入学者

学科教育科目

平成25年度(2013年度) 学年暦〔I期〕

25年	日		月		火		水		木		金		土	
			1		2	3	入学式	4	5	6				
	7		8 ①	I 期授業開始	9 ①	10 ①		11 ①	12 ①					
4月	14		15 ②		16 ②	17 ②		18 ②	19 ②					
	21		22 ③		23 ③	24 ③		25 ③	26 ③					
	28		29	昭和の日	30 ④	月曜日科目授業日	1 ④	2 ④	3	憲法記念日	4	みどりの日		
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7 ④		8 ⑤	9 ⑤	10 ④					
	12		13	幼稚園見学観察実習	14	幼稚園見学観察実習	15	幼稚園見学観察実習	16	幼稚園見学観察実習	17	幼稚園見学観察実習	18	幼稚園見学観察実習
	19		20 ⑤		21 ⑤		22 ⑥	23 ⑥	24 ⑤					
	26		27 ⑥		28 ⑥		29 ⑦	30 ⑦	31 ⑥					
	2		3 ⑦		4 ⑦		5 ⑧	6 ⑧	7 ⑦					
6月	9		10	創立記念日	11 ⑧		12 ⑨	13 ⑨	14 ⑧					
	16	オープンキャンパス	17 ⑧		18 ⑨		19 ⑩	20 ⑩	21 ⑨					
	23		24 ⑨		25 ⑩		26 ⑪	27 ⑪	28 ⑩					
	30		1 ⑩		2 ⑪		3 ⑫	4 ⑫	5 ⑪					
	7		8 ⑪		9 ⑫		10 ⑬	11 ⑬	12 ⑫					
7月	14		15	海の日	16 ⑬		17 ⑭	18 ⑭	19 ⑬					
	21	オープンキャンパス	22 ⑫		23 ⑭		24 ⑬	月曜日科目授業日	25	補講日	26 ⑭			
	28		29 ⑭		30	予備日	31 ⑮	1 ⑮	2 ⑮					
	4	オープンキャンパス	5 ⑮		6 ⑮		7	補講日	8	補講日	9	補講日	10	
8月	11		12		13		14	15	16					
	18		19		20		21	22	23					
	25	オープンキャンパス	26		27		28	29	30					
9月	1		2		3		4	5	6					
	8	オープンキャンパス	9		10		11	12	13					

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成25年度(2013年度) 学年暦〔Ⅱ期〕

25年	日		月		火		水		木		金		土		
9月	8	オープンキャンパス	9		10		11		12		13	①	14	①	
	15		16	敬老の日	17	①	18	①	19	①	20	②	21		
	22		23	秋分の日	24	②	25	②	26	②	27	③	28		
	29		30	②	1	③	2	③	3	③	4	④	5		
10月	6		7	③	8	④	9	④	10	④	11	⑤	12		
	13		14	体育の日	15	⑤	16	⑤	17	⑤	18	⑥	19	④	
	20		21	⑤	22	⑥	23	⑥	24	⑥	25	⑦	26		
	27		28	⑥	29	⑦	30	⑦	31	⑦	1	⑧	2		
11月	3	文化の日	4	振替休日	5	⑦	月曜日科目授業日	6	⑧	7	⑧	8	⑧	9	⑧
	10	大学祭	11	大学祭後片付け	12	⑧		13	⑨	14	⑨	15	⑨	16	
	17		18	⑧	19	⑨	20	⑩	21	⑩	22	⑩	23	⑩	
	24		25	施設観察参加実習	26		施設観察参加実習	27		施設観察参加実習	28		施設観察参加実習	29	
12月	1		2	施設観察参加実習	3		施設観察参加実習	4		施設観察参加実習	5		施設観察参加実習	6	
	8		9	⑨	10	⑩	11	⑩	12	⑩	13	⑪	14		
	15		16	⑩	17	⑪	18	⑫	19	⑫	20	⑫	21		
	22		23	天皇誕生日	24	⑫	25	⑪	月曜日科目授業日	26	⑬	27		28	
26年	29		30		31		1	元日	2		3		4		
	5		6	⑫	7	⑬	8	⑬	9	⑭	10	⑬	11		
	12		13	成人の日	14	⑭	15	⑭	16	⑮	17	⑮	18	⑮	
	19	センター試験	20	⑬	21	⑮	22	⑮	23	⑭	月曜日科目授業日	24	⑭	25	
1月	26		27	⑮	28		予備日	29	補講日	30	補講日	31	⑮	1	
	2		3	補講日	4		補講日	5		6		7		8	
	9		10		11		建国記念の日	12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22		
2月	23		24		25		26		27		28		29		
	2		3		4		5		6		7		8		
	9		10		11		12		13		14		15		
	16		17		18		19		20		21		22		
3月	23	卒業式	24		25		26		27		28		29		
	30		31												

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成24年度（2012年度）入学者対象

授 業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		幼稚園 教諭二種 免許	保育士 資格	学年配当(数字は適当り授業時間)						備考	ページ	
			必修	選択			1年		2年		3年				
							I	II	I	II	I	II			
学	音楽教育A	演習	1						2					61	
	音楽教育B	演習	1	◆	○				2	2				62	
	音楽教育C	演習	1		○						2				
	音楽教育D	演習	1		○							2			
	器楽A	演習	1	◆	●	2									
	器楽B	演習	1	◆	○		2								
	造形A	演習	1						2					63～65	
	造形B	演習	1	◆	○				2	2				66～68	
	幼児体育A	演習	1						2	2				69	
	幼児体育B	演習	1	◆	○				2	2				70	
科	算数	講義	2	◇									不開講		
	生活概論	講義	2	◇									不開講		
	子どもの保健ⅠA	講義	2		●		2								
	子どもの保健ⅠB	講義	2		●			2						71	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1		●						2				
	子どもの食と栄養A	演習	1		●				2					72	
	子どもの食と栄養B	演習	1		●				2	2				73	
	家庭支援論	講義	2		●							2			
	社会福祉	講義	2		●							2			
	相談援助	演習	1		●							2			
教	児童家庭福祉	講義	2		●	2									
	教育原理	講義	2								2				
	保育原理A	講義	2			2									
	保育原理B	講義	2		○						2				
	社会的養護	講義	2		●		2								
	保育相談支援	演習	1		●							2			
	教育実習	実習	5	◆					5					74～75	
	保育実習Ⅰ	実習	4		●		4							76	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		●		2							77	
	保育実習Ⅱ	実習	2		○							2			
育	保育実習指導Ⅱ	演習	1		○						1				
	保育実習Ⅲ	実習	2		○						2				
	保育実習指導Ⅲ	演習	1		○						1				
	保育の心理学Ⅰ	講義	2			2									
	保育の心理学Ⅱ	演習	1		●						2				
	教育心理学	講義	2	◆							2				
	児童心理学	講義	2	◆	○				2					78	
	青年心理学	講義	2		○		2								
	臨床心理学	演習	2		○				2					☆	79
	教育制度論	講義	2	◆							2				
目	教師・保育者論	講義	2		○						2				
	保育課程総論	講義	2			2									
	保育内容総論	演習	1	◆	●		2								
	保育内容・健康	演習	2	◆	●			2						☆	80
	保育内容・人間関係	演習	2	◆	●				2					☆	81
	保育内容・環境	演習	2	◆	●				2					☆	82
	保育内容・言葉	演習	2	◆	●		2							☆	
	保育内容・表現A	演習	2	◆	●				2					☆	83
	保育内容・表現B	演習	2	◆	●				2					☆	84
	保育方法論	講義	2	◆			2								
目	社会的養護内容	演習	1		●		2								
	乳児保育A	演習	1		●	2									
	乳児保育B	演習	1		●						2				
	障害児保育A	演習	1		●				2						85
	障害児保育B	演習	1		●						2				
	教育相談	講義	2	◆	○						2				
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	◆	●						2	2			☆

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。 ●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
 ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。 ○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。
 ※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 A				
担当者氏名	中島 龍一				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかななくてはなりません。また、保育現場が多様化している現在、様々な状況の中でこども一人ひとりに偏りなく接していくことが重要です。このことを踏まえて、音楽を多角的に捉え、その楽しさを広げていくことを実践の中で学びます。

《授業の到達目標》

こどもの歌をできるだけ多く知り、うたうことができる。
楽譜を読む基礎的な力を身に付けることができる。
初歩的な手話によるこどもの歌の表現ができる。

《成績評価の方法》

考查50%、学習態度・課題提出等50%の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』 『おんがく玉手箱』
『Cookin' Music ~基礎から始める音楽づくり~』
(共同音楽出版社)

《参考図書》

『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》

授業で実践した内容の復習を十分に、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
室内での飲食厳禁。
爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育 A』授業内容の説明と実践	シラバス・受講表・学生コンサート・使用テキスト等についての説明と実践。
2	うたうことの大切さ(1)	『うたのメルヘン』 『おんがく玉手箱』 『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
3	うたうことの大切さ(2)	『うたのメルヘン』 『おんがく玉手箱』 『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
4	うたうことの大切さ(3)	『うたのメルヘン』 『おんがく玉手箱』 『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
5	うたうことの大切さ(4)	『うたのメルヘン』 『おんがく玉手箱』 『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。
6	楽譜を読む・基礎(1)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学び。
7	楽譜を読む・基礎(2)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学び。
8	楽譜を読む・応用(1)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学びと応用。
9	楽譜を読む・応用(2)	『Cookin' Music』を使用しての基礎的な楽典の学びと応用。
10	こどもの歌と表現(1)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
11	こどもの歌と表現(2)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
12	こどもの歌と表現(3)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
13	こどもの歌と表現(4)	テキストから、手遊び・歌遊び・手話表現による音楽表現法を学ぶ。また、こどもに歌を指導する際の導入法を年齢別に学ぶ。
14	実践演習発表会	今まで習得してきたものが自分のものとなっているかどうか、実践的演習発表を行う。
15	総復習(総まとめ)	期の総復習と、期の「音楽教育 B」に備えた演習実践。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 B				
担当者氏名	井上 朋子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

音楽教育Bでは、主に保育現場で用いられている楽器の基礎的な奏法及び指導法を学習すると同時に、読譜力を習得します。そして、様々なアンサンブル演奏を経験し、音楽表現力と実践力を身に付けます。また、ドラムジカを創作し、音楽、言葉、身体、造形等の総合的な芸術表現力も養います。

《テキスト》

『Cookn' Music～基礎から始める音楽づくり～』（共同音楽出版社）、『うたのメルヘン』（共同音楽出版社）、『おんがく玉手箱』（共同音楽出版社）、『4訂版 歌はともだち』（教育芸術社）

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

保育現場で用いられている楽器の基礎的な知識と奏法を理解する。
基礎的な楽典を理解し、読譜力を身に付ける。
音楽、言葉、身体、造形等の総合的な芸術表現力を習得する。
指揮法及び合奏指導法を身に付ける。

《授業時間外学習》

毎回授業で扱った曲を復習し、レパートリーを増やしましょう。

《成績評価の方法》

授業中指示する課題及び小テスト（80%）及び授業態度（20%）。

《備考》

1. 講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
2. 教室内での飲食厳禁。
3. 爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育 B』授業内容の説明と実践	オリエンテーション。 楽器を使った音楽遊び。リズム演習。
2	打楽器の基礎	子どもの歌。 保育現場で用いられている打楽器の名称や奏法を習得する。リズム演習。
3	リズムアンサンブル	子どもの歌。 リズム楽器を用いたアンサンブル演奏。
4	小アンサンブル	子どもの歌。 ミュージックベル・トーンチャイムの奏法及び指導法。アンサンブル演奏。
5	鍵盤ハーモニカを使って	子どもの歌。 鍵盤ハーモニカの奏法及び指導法。
6	身近なものを使って	子どもの歌。新聞アンサンブル、ボディパーカッションアンサンブル。ボイスアンサンブル。手作り楽器の制作。絵楽譜づくり。
7	ミニ・ドラムジカ	ドラムジカの説明。鑑賞。グループ分け。台本作り。
8	ミニ・ドラムジカ	グループ練習及び準備。
9	ミニ・ドラムジカ	グループ練習及び準備。
10	ミニ・ドラムジカ	グループ発表。
11	合奏	子どもの歌。 合奏譜の読み方。パート譜の作り方。
12	合奏	子どもの歌。 合奏練習と様々な指揮法。
13	合奏	子どもの歌。 合奏練習と指揮法及び指導法。
14	合奏	子どもの歌。 合奏練習と指導法。
15	まとめ	理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	造形 A				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な要素の一つです。創造性豊かな人を育むための大切な役割を担っているといえます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生自身が作品制作に打ち込みながら造形の楽しさを発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。体験したことを絵に描く場合にそれぞれの子どもに対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

提出作品（100％）で成績評価を行う。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容の必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

授業の後片付けは、指示に従って丁寧に行うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、今後の授業計画を理解する。
2	描写-1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方を体験する。
3	描写-2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方を体験する。
4	描写-3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。 立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写-4（立方体）	画面構成と線・面の考え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写-5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
7	描写-6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
8	描写-7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
9	描写-8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成-1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成-2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成-3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成-4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を付けて提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形 A				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

・作品評価（100％）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに 静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形 A				
担当者氏名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》

鉛筆を使いこなす自由で表現できるようになる。
色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答えます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 鉛筆基礎	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方。
2	鉛筆基礎	線の練習、消しゴムについて理解する。
3	鉛筆基礎	立体感、マチエール、線画について理解する。
4	鉛筆基礎	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線について理解する。
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする。
6	色と形を楽しもう	エリックカール技法、エンパリーおじさん技法を学ぶ。
7	色と形を楽しもう	3原色でリアルな野菜を描こう。
8	色と形を楽しもう	子供の物語性を引き出す想像の世界について理解する。
9	スタンプ遊び	指紋スタンプで描いてみよう。
10	スタンプ遊び	紙版画技法を学ぶ。
11	きってやぶいてよーくみて	いちごがいっぱい！何にみえるかな！絵本作り。
12	きってやぶいてよーくみて	巨大クッキング～焼そば 造形遊びを理解する。
13	重ねてコラージュ	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ	紙ビーズのアクセサリ作り。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する。

《学科教育科目》

科目名	造形 B				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作に打ち込むことによって、造形力と柔軟な発想力を養うことを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。

《成績評価の方法》

提出作品（100％）で成績評価を行います。

《備考》

事前に連絡を受けた、授業に必要な準備物は必ず持参すること。授業の準備と後片付けは確実にすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	割りピン人形制作-1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	割りピン人形制作-2	画用紙とトータルカラーを使い、2体の人形制作を計画し、実行することができる。
4	割りピン人形制作-3	画用紙とトータルカラーを使い、2体の人形を制作することができる。
5	割りピン人形制作-4	画用紙とトータルカラーと割りピンを使い、2体の人形を制作することができる。
6	割りピン人形制作-5	2体の人形による展示効果の説明を理解し、実行することができる。
7	スクリーンプリント-1	版の効果、技法について理解する。
8	スクリーンプリント-2	版の成り立ちを理解し原画を作成することができる。
9	スクリーンプリント-3	原画から製版、刷りのプロセスを理解し、実行することができる。
10	スクリーンプリント-4	刷りについて、その原理と材料、技法を理解し、作品を完成させることができる。
11	立体作品制作-1	季節行事の意味と効果を理解し、制作の計画を立てることができる。
12	立体作品制作-2	作品のイメージからラフスケッチを作成し、段階的にプランを絞り込んでいくことができる。
13	立体作品制作-3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
14	立体作品制作-4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
15	立体作品制作-5	時間内に完成させた後、提出する。

《学科教育科目》

科目名	造形 B				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

・作品評価（100％）

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	ポスター制作	関連性のない写真・グラフィアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
3	ポスター制作	関連性のない写真・グラフィアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
4	ポスター制作	関連性のない写真・グラフィアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
5	ポスター制作	関連性のない写真・グラフィアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
6	ポスター制作	関連性のない写真・グラフィアなどを構成するというコラージュの技法を理解し、個性豊かなポスターを制作することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
13	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
14	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。
15	モビール制作	廃品など身近な素材を的確に利用して作った立体をバランスを考えて吊るすことにより、立体構成への理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者氏名	浜島 成嘉、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。この様な活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案する。

《授業の到達目標》

オリジナルの紙を作る。(集める、並べる)
 粘土で記念品を作る。(組み合わせる、重ねる)
 ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る。(組み換える、生かす)

《成績評価の方法》

提出作品(100%)により成績評価を行う。

《テキスト》

『色彩』日本色彩編集委員会(日本色研事業)

《参考図書》

イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉(学研)

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答えます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明。
2	造形遊び	紙の引き出し制作。
3	造形遊び	模写作品。
4	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。food作り。
5	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作。
6	造形遊び	ガチャポンの風鈴作り。
7	造形遊び	立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
8	造形遊び	立体ワンコ。組み立て、張り作業。
9	造形遊び	立体ワンコ。張り作業、ジェッソ塗り、下図犬制作。
10	造形遊び	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り。
11	造形遊び	立体ワンコ。本塗り。
12	造形遊び	カンカン宝箱作り。
13	造形遊び	お昼ねテント&ふりふりフラッグ作り。
14	造形遊び	全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催する。
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育 A				
担当者氏名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

幼児の運動遊び、発達に則した各種運動を通して、からだのエネルギーと心のエネルギーの関係について考える。

《テキスト》

プリントを随時配布する。

《授業の到達目標》

- ・ 幼児の可能な、挑戦させたい運動の内容及び指導技術を身につける。
- ・ 幼児の心を揺さぶる良い動きの要素を理解する。

《参考図書》

『幼児と遊び～理論と実際～』秋葉秀則 労働旬報社 『図説遊びの事典』～幼児編～ 村上貞雄 明治図書 『遊びを育てる』野村寿子 共同医書出版社 『みんなの保育大学シリーズ』全3巻 井尻昭二他築地書館

《授業時間外学習》

参考図書等を読み、幼児教育に関する情報を集める。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に取り組む姿勢50%、期末テスト50%

《備考》

理解度に応じて内容を変更することがある。運動にふさわし服装、シューズを準備する必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育における幼児体育の課題	からだで環境に働きかけることの意義を理解する
2	幼児期の発達の特徴を理解する	幼児期の発達特性に応じた運動遊び、各種運動を実践しその意義を理解する。
3	楽しい動き（良い動き）	良い動きが生きる力を育むことを理解する。
4	良い動きを導き出す運動遊び	良い動きの運動要素について理解する。
5	良い動きを導き出す運動遊び	良い動きの運動要素について理解する。
6	マット運動と回転感覚	・ 回転運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
7	マット運動と回転感覚	・ 回転運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
8	鉄棒運動による支持回転感覚	・ 支持回転運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
9	鉄棒運動による支持回転感覚	・ 支持回転運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
10	鉄棒運動による支持回転感覚	・ 支持回転運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
11	跳び箱運動による空間感覚	・ 空間運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
12	跳び箱運動による空間感覚	・ 空間運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
13	跳び箱運動による空間感覚	・ 空間運動の課題と身体感覚について幼児の立場でその意義を考える。
14	回転運動・支持回転運動・空間運動	実技テスト（90分）
15	まとめ	筆記テスト（90分）

《学科教育科目》

科目名	幼児体育 B				
担当者氏名	井上 靖				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

スポーツの実践を通してコミュニケーション力および、己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《テキスト》

随時プリントを配布する。

《参考図書》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館 「からだロジー入門」宮下充正 大修館 「スポーツ上達の科学」八木一正大河出版

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《授業時間外学習》

・授業で紹介するストレッチを週3日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《成績評価の方法》

・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《備考》

・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
 ・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項 ・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び2人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・2人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム(ダブルス)の進め方 ・2人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 B				
担当者氏名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

子どもの保健 Aで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めると共に、保育者として子どもの異変時にその様子から『子どもたちの命を守る』ための的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『よくわかる子どもの保健』
 ミネルヴァ書房 竹内義博・大矢紀昭 編

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業の到達目標》

乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』のしかかっていることを理解することができる。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
 【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
 番組テーマは、毎週異なる。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴のレポート(30%)
- ・学期末テスト(50%)
- ・課題レポート(20%)

《備考》

園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、疾患の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの疾病の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とそれらをふまえての保育者の役割を理解する。
2	子どもに起こりやすい症状とその対応	発熱 吐き気と脱水 頭痛 咳と喘鳴 下痢と便秘 についての種類と発達段階ごとの対応が解る。
3	子どもの病気とその予防	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の種類と出席停止期間の基準を理解する。
4	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる呼吸器の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
5	子どもの病気とその予防	子どもによくみられるアレルギー性の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
6	子どもの病気とその予防	子どもによくみられるウイルスによる感染症とそのウイルスによる食中毒の病気が理解できて、その対応・予防ができるようになる。
7	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる細菌による感染症とその細菌による食中毒の病気が理解でき、その対応・予防ができるようになる。
8	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる整形外科の病気・耳鼻咽喉科の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気の理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの病気とその予防	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気が理解でき、その対応・予防、及び保育者のかかわり方が解る。
10	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる血液の病気と小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTR視聴をして、その子どもの状態やおもいに寄り添うことができる。
11	保育所・幼稚園に備えておくべき医薬品	保育所・幼稚園での『保健室』の役割と備品、保健室に備えておく医薬品等が解る。
12	子どもの事故と安全管理、及び安全教育	子どもの事故の特徴と発達段階ごとの事故の種類・予防が解り、子どもへの安全教育は子どもの保健、養育の上で大事なことが理解できる。
13	看護と救急処置	子どもによく起こる発達段階別の事故の種類とその予防ができるようになる。
14	看護と救急処置	13回目の講義内容を想起しながらその対応ができる。(けが・やけど・出血・熱中症・異物)
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 A				
担当者氏名	廣 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養 A では、食物の栄養や摂取方法を理解し、子どものみならず学生自身も正しい食生活を営むことができるようにする。それに加え、子どもや保護者への指導ができることに重点をおく。授業はテキストを中心に講義と演習、実習をまじえ学習を行う。

《授業の到達目標》

子どもが健康維持するための栄養の知識や食事摂取基準の概要及び食品の使用法などの理解をし、これらの知見を踏まえ献立作成ができる。また、これらの知識を子どもの発育と発達にあわせて、「乳幼児期に適した食生活」として考えることができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの食と栄養	「子どもの食と栄養」についての全体の学習内容や学習方法の概要を理解する。
2	子どもの健康と食生活	子どもの心身の健康や食生活について学習し、今後の学習をする意義について理解する。
3	体のしくみと栄養（1）	食べ物が消化・吸収されるしくみや代謝を理解し、栄養の生理について学習する。
4	体のしくみと栄養（2）	食欲のしくみについて理解し、「食べる」ことを考えることができる。
5	栄養素の働き（1）	栄養の考え方を理解し、糖質・たんぱく質の働きを学習する。
6	栄養素の働き（2）	脂質・ビタミン・無機質・水分の働きを学習する。
7	食事摂取基準と食品（1）	どれだけの栄養素や食品を摂取すると健康を維持できるかを学習する。
8	食事摂取基準と食品（2）	食事摂取基準と食品（1）を踏まえ、食事バランスガイドを理解し活用する。
9	献立と調理（1）	調理の基本を理解し、食品の組み合わせを考える。また、食の安全についても学習する。
10	献立と調理（2）	食品の目安量を習得する。
11	献立と調理（3）	献立と調理（1）（2）で学習したことを踏まえ、献立作成を行う。
12	献立と調理（4）	献立と調理（3）で作成した献立を実際に調理し、その手順・技術を確認する。
13	子どもの発育・発達と食生活（1）	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
14	子どもの発育・発達と食生活（2）	子どもの発育・発達から栄養状態の評価を客観的に評価する方法を理解する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、自身の知見として習得されているか確認する。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子どもの食と栄養』
進藤容子編、あいり出版 2012

《参考図書》

五訂増補食品成分表2013 女子栄養大学出版 2013

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に
する。

《備考》

毎日の食事内容や食習慣を意識しながら、生活を送るように心がける。学習したことは、正しい食習慣に役立て、実践する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 B				
担当者氏名	廣 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

子どもの食生活は、健全な心身の発育・発達をするため、また、正しい食習慣を確立するためにも大切である。子どもの食と栄養 B では子どもの食と栄養 A で学んだ知識をいかしながら、各年齢での食事摂取や食生活を演習を通して学習し、「子どもの発達過程と食」についての具体的な知識と技術の習得をねらいとする。また、保育所・幼稚園での食育について考える。

《授業の到達目標》

「子どもの発達過程と食」についてのイメージがもて、栄養の知識を確実なものとする。また、具体的に幼児への食指導、食の援助ができるようになる。

《テキスト》

『新しい時代の保育者養成 子ども食と栄養』
進藤容子編、あいり出版 2012

《参考図書》

『授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き』
柳澤正義 監修、財団法人 母子衛生研究会、2008

『五訂増補食品成分表 2013』 女子栄養大学出版 2013

《授業時間外学習》

多くの知見を覚える必要があるため、日頃から復習を大切に
する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業態度を含むグループ学習への協力と参加：20%
- (2) レポート・課題提出：20%（提出遅れは減点となる）
- (3) 試験：60%（試験は持ち込み不可とする）

《備考》

普段から乳幼児への関心を持ち、特に食事や生活に興味をもつこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児期の心身の発達と食生活（1）	授乳の意義と食生活について理解する。また、妊婦や授乳婦の食生活についても学習する。
2	乳児期の心身の発達と食生活（2）	離乳の意義と離乳方法について理解する。
3	乳児期の心身の発達と食生活（3）	乳児期の心身の発達と食生活（1）で学習したことを踏まえ、実際に調乳をする。
4	乳児期の心身の発達と食生活（4）	乳児期の心身の発達と食生活（2）で学習したことを踏まえ、実際に離乳食を調理する。
5	幼児期の心身の発達と食生活（1）	幼児期の食生活の特徴を理解し、食事の援助について学習する。
6	幼児期の心身の発達と食生活（2）	幼児期の心身の発達と食生活（1）を踏まえ、間食の献立作成を行う。
7	幼児期の心身の発達と食生活（3）	幼児期の心身の発達と食生活（2）で考えた幼児の間食を実際に調理する。
8	乳幼児期の問題と解決	幼稚園教諭・保育士として乳幼児期の食生活での問題と解決法について学習する。
9	食育の基本と内容	家庭・幼稚園・保育所などでの乳幼児への食育の考え方・方法等を学習する。
10	食育の実際（1）	食育の基本と内容で学習したことを踏まえ、食育活動の計画を作成する。
11	食育の実際（2）	食育の実際（1）で作成した食育活動計画を発表する。
12	食育の実際（3）	食育の実際（1）で作成した食育活動計画を発表する。
13	子どもの食事と栄養の実際	家庭・幼稚園・保育園・児童福祉施設での食事と栄養について学習する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーや疾病及び体調不良の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応を学習する。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を理解し、知見として得られているか再確認し、具体的に保育現場で応用できる。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	三井 圭子、青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	2年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習事前授業では、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。見学観察実習の目的、意義を知り、現場で知識を得る。参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手引き』授業で配布
 『実習日誌の書き方』萌文書林 『保育実技』萌文書林
 ・必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。子どもへのかかわり方など保育技術を学ぶ。子どもの遊びを常に考え、共に楽しむ遊びは何か、それを保育内容としてそのように指導計画を立てるかを考え、作成する力を持つ。保育者としてのより良い資質を身につける。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備しておく。常に、ハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%
 授業中の発表内容、態度 20%
 実習園の評価・実習ノート 70%

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の心得見学観察の意義	教育実習の資格条件を理解し、遵守する見学観察実習の意義を知り、課題を持つ。
2	実習日誌の書き方	実習園の組織、園舎内外の環境、教育目標等の教育課程を学び、実習ノートに記入できる。
3	実習日誌の書き方	一日の観察の記録をどのように書くか、観察のポイントが説明できる。子どもの活動と教師の援助の書き方を知り、記録の方法を説明する。
4	実習日誌の書き方	環境構成の書き方を説明できる子どもが活動しやすい環境について知る。使用する用具、教具、教材を説明する。
5	実習直前指導	実習中の心得、諸注意、配布物、持参するもの等リーダーが説明する実習生の園での姿など、DVDを視聴する。
6	見学観察実習の反省と課題自己評価	見学観察実習の反省をし、自ら課題を見つけることができるグループで実習を振り返り、問題点を討議し、これからの学びに繋げる。
7	参加指導実習の目的と意義	参加指導実習の目的と意義について学び、部分実習、研究保育を検討する。
8	参加指導実習の心得と準備	参加指導実習においての実習生の心得と準備の検討を重ね、保育する立場として、何を身につけるか検討する。
9	幼稚園教育課程3歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、3歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する3歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
10	幼稚園教育課程4歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し、4歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する4歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
11	幼稚園教育課程5歳児指導計画	幼稚園教育課程を理解し5歳児の保育を考え、四季や時期の指導計画を検討する5歳児の成長発達を知り、生活、遊びを考え、保育に活かす方法を説明する。
12	指導計画作成と実際相互学習	相互学習の中で、グループで、模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
13	指導計画作成と実際相互学習	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
14	指導計画作成と実際相互学習	相互学習の中で、グループで模擬保育をしながら、実践力を身につける指導計画を立てる。自分たちで考えた保育内容とし、進め方の検討や課題を話し合う。
15	相互学習の反省と課題	相互学習 ~ で学んだこと、課題などをどのように参加指導実習の各自の部分保育、研究保育に活かすか、指導計画を作成し、説明する。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	三井 圭子、青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	2年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

教育実習に必要な知識や実践技能を身につける。見学観察実習での経験を活かし、学ぶべき課題を見つける。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。幼児理解をする。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しみ、学ぶ保育内容を工夫と創造をする。教育的効果を考えながら指導計画が作成できるようにする。模擬保育をし、参加指導実習に向けて保育する力をつける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手引き』授業で配布
『実習日誌の書き方』萌文書林 『保育実技』萌文書林
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取る力をつける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等の実習ノートの書き方を学び書くことができる。子どもの姿、活動から子どもの学びが保証できる、環境構成のあり方、教師の援助、教材準備の方法を学び、指導計画に繋げる事ができるようにする。積極的に模擬保育をし、保育する力を身に付け、保育者の資質の向上を図る

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備しておく。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%
授業中の発表内容、態度 20%
実習園の評価・実習ノート 70%

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退しない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	保育実習
2	保育実習	保育実習
3	保育実習	保育実習
4	保育実習	保育実習
5	保育実習	保育実習
6	保育実習	保育実習
7	保育実習	保育実習
8	保育実習	保育実習
9	保育実習	保育実習
10	保育実習	保育実習
11	保育実習	保育実習
12	参加指導実習の事前指導 指導計画の作成	参加指導実習の目的と意義について説明ができる。各自の実習園で行う部分保育の指導計画を立て、ねらい、内容を説明する。
13	指導計画の作成部分保育	部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。
14	指導計画の作成部分保育	部分保育の指導計画を立て、どのように保育を進めるか、時間配分、環境構成、子どもの活動、教師の援助など説明する。
15	指導計画の作成研究保育	研究保育の指導計画を立て、教材準備、保育への導入などシュミレーションをして保育を進める方法を説明する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《施設実習》				
担当者氏名	小林 洋司、杉山 貴要江、三浦 かわり、藤澤 英夫、松下 房枝				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（子どもの観察とその記録，個々の状態に応じた援助やかかり）。養護内容・生活環境（子どもの心身の状態に応じた対応，健康管理，安全対策の理解）。計画と記録（支援計画の理解と活用，記録に基づく省察・自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（保育士の業務内容，職員間の役割分担や連携，保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容を踏まえ，子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%），学生の成果の表れである実習ノート等（40%）。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2012』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2012

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように，実習10日前から検温し，自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで，著しく体力と免疫力を損なうと考えられるので，生活のリズムを整えることに努め，実習に集中できるよう心がける。

《備考》

「保育実習指導」においての諸注意に気を配り，必要に応じて学科事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則，1日8時間×10日間，80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《施設実習》				
担当者氏名	小林 洋司、杉山 貴要江、三浦 かわり、藤澤 英夫、松下 房枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し、目的を明らかにして実習に臨み、実習後は実習の自己評価、他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，(株)みらい，2012

《参考図書》

『最新保育資料集2012』ミネルヴァ書房，2012その他，実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢，個人を尊重する考え方を理解できる。プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。実習計画書の作成，実習中の観察，日誌等記録の書き方，養護技術を学習し，習得できる。実習終了後は，実習全体を振り返り，実習報告書を作成する。とともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに課題を出します。各自それに従って自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成等（50%），事後指導：報告書の作成等（50%）

《備考》

全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は，事前に学科事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・「保育実習」（施設）の内容説明，評価基準方法，使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全，疾病予防
2	実習施設の確定	・実習ノートの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導 1	視聴覚教材 1による学習
4	事前指導 2	視聴覚教材 2による学習
5	事前指導 3	書籍，専門雑誌等による学習
6	事前指導 4	実習施設の特徴，具体的実習内容についての学習・「実習計画書」の書き方，提出方法
7	事前指導 5	養護系施設，障害系施設の実際について学ぶ・実習生に求められること
8	事前指導 6	養護系施設，障害系施設の実際について学ぶ・実習日誌の書き方等，記録について
9	事前指導 7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）・オリエンテーションの意義と諸注意・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導 8	報告書の書き方と提出方法 / 『実習報告集』作成の意味 / アンケート用紙配布・巡回指導教員の掲示と挨拶 ・施設への礼状について
11	事前指導 9	実習前最後の連絡（4クラス合同）・実習施設へ持参する書類の配布
12	事後指導 1	「実習報告会」の準備・報告会での発表内容の確認 ・実習報告書の作成
13	事後指導 2	「実習報告会」の準備・報告会での発表原稿作成 ・実習報告書の作成
14	事後指導 3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告 ・質疑応答等
15	事後指導 4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告 ・質疑応答等

《学科教育科目》

科目名	児童心理学				
担当者氏名	杉田 律子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。

また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。

子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できること。

特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

第15回目を行う試験の評価 70%

授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価 30%

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

『はじめて学ぶ乳幼児の心理-こころの育ちと発達の支援』桜井茂男（編） 有斐閣 2006 『グラフィック乳幼児心理学』若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著）サイエンス社 2006 『シードブック 保育の心理学』本郷一夫（編）建帛社 2011

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献等を自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	子どもの心理学を学ぶ意義について、子ども時代の発達の特徴について、保育所保育指針の記述内容とそれに対する補足説明を通じて、理解する。
2	子どもの運動機能の発達	子ども時代、特に運動機能の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
3	子どもの社会性の発達	子ども時代の発達、特に社会性の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
4	子どもの情動の発達	子ども時代の発達、特に情動の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
5	子どもの感情の発達	子ども時代の発達、特に感情の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
6	子どもの言葉の発達	子ども時代の発達、特に言葉の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
7	子どもの思考認知の発達	子ども時代の発達、特に思考認知の発達について、保育所保育指針の記述に基づきつつ、詳細に学ぶ。
8	親子関係の発達	親子関係の発達について、母子コミュニケーションの観点から学ぶ。
9	子どもの発達と遊び	子どもにとっての遊びの重要性について学ぶ。
10	他者の心の理解	他者の“こころ”の理解と他者への思いやりの発達過程について学ぶ。
11	発達障がいについて ～その1	発達障がいとはいかなる障がいか、そしてそもそも障がいとは何かについて学ぶ。
12	発達障がいについて ～その2	発達障がいには、どのような障がいが含まれるのか、そして発達障がい抱える子どもとその保護者に対する対応について学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども達～その1	被虐待児などに特徴的な心理的問題について学ぶ
14	特別な支援が必要な子ども達～その2	心理的な問題を抱える子どもに対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

保育・教育に生きる臨床心理学
 松島恭子監修・篠田美紀編著
 光生館 税別2200円

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どもこころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み30%
 授業内容の理解70%

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の概説
2	こころについての探求	フロイトの発見したこと
3	精神分析	フロイトの精神分析について
4	精神分析	フロイトの精神分析の用語
5	まとめ	第4回までの授業のまとめ
6	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・メラニー・クラインの研究
7	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・マーガレット・マラーの研究
8	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・ウィニコットの研究
9	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・ウィニコットのスクウィグル（描画療法）
10	まとめ	第9回までのまとめ
11	心理療法について	ユングの心理学
12	心理療法について	箱庭療法
13	心理療法について	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリング
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリング
15	まとめ	第14回までのまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康				
担当者氏名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

1. 乳幼児期は人間の生涯にわたって必要となる健康な心身を培う最も大切な時期であり、発達過程をたどりながら「健康な心身」の概念を形成し、その重要性を学ぶ。
2. 保育内容・健康の視点から乳幼児の健康的な発達と園生活の関連を学び、遊びや生活の援助方法を学ぶ。
3. 健康を阻害する様々な要因を事例より学び、「命を守る保育」について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・「健康」の概念を身につけ、乳幼児の心身の健康の重要性について説明することができる。
- ・保育内容・健康の目的と内容を理解し、生活習慣の自立や遊びとの関係について説明し、また実践することができるようになる。
- ・事例などをとおし、配慮の行き届いた安全環境を作り、家庭・地域を含め、命を守る保育に向かえるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、課題レポート（20％）、授業態度（20％）

《テキスト》

「保育内容・健康」近藤充夫編著 建帛社
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「事例で学ぶ保育内容・健康」ひかりのくに
 「発達がわかれば子どもが見えてくる」ぎょうせい
 「保育内容・健康」ミネルヴァ
 「幼児期-子どもは世界をどうつかむか」岡本夏木著 岩波新書
 「見直そう子育て たて直そう生活リズム」エイデル研究所

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目とおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・小型遊具を作るので指定した回に必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・健康の定義について
2	保育内容・健康の「ねらい」及び「内容」	・保育所保育指針「健康」の領域 ・ねらい・内容・内容の取り扱い
3	子どもの体と健康	体格と生理機能 0歳～5歳の発達過程
4	子どもの体と健康	運動能力の発達 発達を促す遊び
5	子どもの体と健康	基本的な生活習慣の形成 発達との関係、生活習慣と動作
6	子どもの心と健康	情緒の発達と運動とスキンシップ遊びの実践 社会性の発達と運動と群れ遊びの実践
7	子どもの心と健康	パーソナリティの発達と運動 知的能力の発達と運動
8	子どもの心と健康	子どもの健康をめぐる問題 健康被害の事例、不適切なかかわりの事例
9	子どもの心と健康	食育について 食の大切さ、人とのかかわり、身近な栽培
10	乳幼児の遊びの発達と健康	・発達の視点から見る遊具 大型遊具と小型遊具の特徴と遊び
11	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作
12	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の製作
13	乳幼児の遊びの発達と健康	・小型遊具で遊ぶ ・小型遊具の遊びの実践
14	安全保育について	乳幼児の安全管理 安全教育のねらい 安全教育の指導
15	学習のまとめと理解度の確認	筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係				
担当者氏名	三井 圭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

幼児期の人間関係は、年齢及び成長発達により培われる。良い人間関係は、将来の人間形成の基礎となり、そこに保育者は重要な役割を担うのである。様々な幼児の姿、活動から幼児の行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけるそのためには自分自身が豊かな心情、感性を持つ。また常に考える態度で臨み、知識、技能が身に付くようにし、保育の方法や実践力を習得する。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要領の解説を熟読し理解し知識とする。乳幼児期の成長発達と心情の理解をする。様々な子どもの姿、行動の事例から、保育者としてのことばかけ、支援、援助を学ぶ。積極的な関心と柔軟な心を持ち、乳幼児の良き支援者になる。具体的な事例、演習問題から、丁寧な対応や気持ちのくみ取りができるようになる。事例から色々な場面を設定し考えを明確にする。プロ意識を持ち、保護者対応もできる。

《成績評価の方法》

事例、演習問題への解答 20% 授業態度 10% 筆記試験 70%
 筆記試験については、授業のまとめと考えや身に付いたことを評価する。資料の持ち込みは不可。

《テキスト》

「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」
 随時プリント配布

《参考図書》

「保育内容・人間関係」森上史朗・吉村真理子・後藤節美編
 ミネルヴァ書房
 「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」文部科学省
 授業中適宜紹介する。

《授業時間外学習》

復習をし、疑問点を質問できるよう考える。前回の事例、演習問題を発表できるようにする。レポートの提出は必ず期限までにする。新聞で社会情勢を知る。保育、教育の記事、子育てに関する記事を見る。保育雑誌など見る習慣をつけ、保育者としての資質を高める努力をする。子どもの見本となることをいつも意識をする。

《備考》

授業中の携帯電話の使用と飲食は禁止です。正当な理由のない欠席、遅刻、早退は厳重に注意します。私語、授業の妨害は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の進め方領域「人間関係」の本質	保育所指針・幼稚園教育要領の領域人間関係の「ねらい」「内容」を知る乳児の心の育ちと母親（養育者）のかかわりについて学ぶ。0歳児の遊びと心の発達。
2	「ねらい」「内容」と内容の取扱いの理解	「内容の取扱い」を理解し、乳幼児の成長に必要なかかわりの内容を知る。1歳児の成長発達と、人のかかわりの姿から心の発達やかかわりの内容を理解する。
3	乳児の価値観と成長発達の問題	発達の方向性、発達の段階と己意識を理解し、養育者との愛着関係を説明する。2歳児の成長発達と遊びの中の人のかかわりの姿を学び、社会性の芽生えを知る。
4	幼児の人のかかわり依存の欲求、集団生活	幼児期の友だち関係について、様々な経験を通して集団意識が育つことを知り、過程の大切さを理解する。2歳児の遊びから、周囲の友だちとのかかわり方を知る。
5	家庭、地域の人々のかかわり	人間関係の基礎となる家庭のかかわりと地域の人々とのつながりが、子どもの心の成長にどのような影響があるか学ぶ。成長発達に繋げることの大事さを知る。
6	自立へ向けての経験、体験集団生活の育ち	様々な経験、体験から立することについて知る2歳児の成長発達の姿から、自立から自律へ向かう姿の理解と基本的な生活習慣について説明する。
7	集団の自立と育ち	生活行動の自立と当番活動の意義と幼児の意識の育ちの関係を学ぶ。3歳児の遊びと人のかかわりの育ちを学び、援助の方法を知る。 DVD視聴
8	グループの活動課題をもった遊び	集団遊びから育つことについて知る。子どもが楽しんでする集団遊びを考える。ハプニング、トラブルからその解決方法を子どもの立場、保育者の立場で説明する。
9	年齢による遊びの変化	一人遊び、並行遊び、かかわり遊び、群れ遊びなど、子どもの成長に合わせての遊びから、心の成長発達について知り、その時々の子どもの心を説明ができるようになる。
10	色々なエピソードからの育ち	生活、遊びの中から育つ人のかかわりを考え、様々なエピソード、事例から子どもの心の成長を説明できる。3歳児の人間関係から見た指導計画を知り理解する。
11	保育の実践クラス活動	クラス活動を通して、道徳心、規範意識の育成を目指す保育を知り、どのように培っていくかを知る。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。 DVD視聴
12	保育の実践と視点	目に見えるもの、目に見えないものについて、道徳心、規範意識をどのように培っていくかを知り、説明する。4歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。
13	コミュニケーション	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションがあり、ことばをあまり話さない乳幼児に大切な非言語的コミュニケーションとは何かを理解し学ぶ。
14	保育者の役割と仕事	子どもとの信頼関係を築くには、保育者としての役割をしっかりと理解し、子どもと温かな人間関係を持つ。5歳児の人間関係から見た指導計画を知り、理解する。
15	学習の振り返りまとめ理解度の確認	授業のまとめと振り返りをして自己評価と理解度の確認をする筆記試験。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境				
担当者氏名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

- 1.子どもは周囲の様々な環境に対し、乳幼児の特性である能動性をもって働きかけながら、その相互作用をとおして成長発展を遂げる「育ちのメカニズム」を学習し、環境による保育の重要性を学ぶ。
- 2.事例検討をとおし、様々な育児環境を知る。
- 3.発達に応じた環境構成に意欲的に取り組み、実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・乳幼児の発達は、適切な環境とのオス後作用により望ましい方向に導かれていくことを理解し、「環境との相互作用」について説明することができるようになる。
- ・乳幼児の成長発達にふさわしい環境設定や取り組みができるようになる。
- ・保育者は、乳幼児の最も身近な人的環境である認識を持ち、自ら感性を養うことができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、課題レポート（20％）、授業態度（20％）

《テキスト》

保育内容「環境」共著 北大路書房
保育所保育指針

《参考図書》

「保育内容 環境」共著 建帛社
「環境」共著 チャイルド社
「保育内容 環境」共著 ミネルヴァ
「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目とおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・環境の概念
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」 ・環境をとおして行う保育
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴 ・発達の順序性と連続性
4	人的環境と子どもの育ち	子どもと家族のつながり 子どもと地域社会のつながり
5	人的環境と子どもの育ち	子どもと友だちのつながり 子どもと保育者のつながり
6	物的環境と子どもの育ち	園内の生活環境 園内の遊びの環境
7	保育内容「環境」と子どもの理解	好奇心・探究心の芽ばえ 内発的動機づけ
8	保育内容「環境」と子どもの理解	時間・空間の概念 一日の生活時間の構造
9	保育内容「環境」と子どもの理解	数量・図形・文字の認識 遊びやかかわりの工夫
10	保育内容「環境」と子どもの理解	思考力を育む保育 知的発達、創造力の発達
11	自然環境と子どものかかわり	身近な動植物とのかかわり 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	道徳の概念 道徳を育む保育
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわり ・地域の行事と子どものかかわり
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境 ・教育の視点から見る安全環境
15	授業の振り返りと理解度の確認	筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 A				
担当者氏名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽 小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》

『手あそび指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部） 『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業の到達目標》

- ・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
- ・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《備考》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズムカルに動くことを確認する

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 B				
担当者氏名	小原 義子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

人は生涯にわたって、人やものとのようにかかわっていくが、豊かな生活を作っていく大きな課題である。人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探究心や創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる保育について学ぶ。基本的には保育所保育指針、幼稚園教育要領の「表現」に示されている内容を理解し、具体的な事例を通して、乳幼児期の特徴を理解し、発達の課題に即したよりよい援助のあり方を探る。

《授業の到達目標》

感じたことや、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする保育内容について理解する。

《成績評価の方法》

授業の到達目標について理解した内容を分析し、まとめたものをテスト評価する（60％）。保育所保育指針や幼稚園教育要領の「表現」に示されている基本的理解について小テストをする（40％）。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』

《参考図書》

『保育内容造形表現の探究』黒川建一編著 相川書房
 『新幼稚園教育要領の展開』神長美津子 岩立京子 編著 明治図書

《授業時間外学習》

実習現場において、幼児の表現を読み取り記録しておく。又、豊かな感性や表現する力を養うための保育士の援助について具体的な姿を見つけ記録しておく。自分自身の感じる心や表現力について自己評価する。

《備考》

乳幼児教育現場において、保育士に求められる人としてのモデルの観点より、授業中のマナーについては、強く注意を促す。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要・到達目標の理解をする。「表現」が何処に示されているかを知る。
2	領域についての基本的理解	教育要領と保育指針から、領域の前文の内容理解をする。（保育所の保育の原理や幼稚園教育の基本との繋がり・ねらいと内容について）
3	「表現」の基本的理解	「表現」の内容から保育所と幼稚園を比較し、共通点や異なる点について知る。
4	「表現」の基本的理解	感性と表現に関する領域「表現」の基本的な考え方を知る。
5	「表現」の基本的理解	「表現」の内容 (1)(2)の理解をする。
6	「表現」の基本的理解	「表現」の内容 (3)(4)(5)の理解をする。
7	「表現」の基本的理解	「表現」の内容 (6)(7)(8)の理解をする。
8	「表現」の基本的理解	「表現」の内容の取り扱いについて理解する。
9	保育所や幼稚園における生活（表現）について	保育指針や教育要領から役割について学び、表現する生活との関係について知る。
10	保育実践で知っておきたい基本的理解	子どもの発達を知る。（保育指針より）
11	保育実践で知っておきたい基本的理解	保育指針における、ねらい及び内容の（1）養護に関するねらい及び内容について知る。又保育の実践上の配慮事項の内容も知る。
12	誕生した時から始まる表現について	原体験と感性の育ちについて知る。
13	保育者の役割について	共感的に受け止めること・意欲を促すこと・創造性を豊かにすること等の保育者の役割について理解を深める。
14	保育者の役割について	感性を育む乳幼児期の保育内容について、保育者の役割と課題を明らかにする。
15	授業のまとめ	到達目標に向け学び取った保育内容を具体的にまとめる。

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 A				
担当者氏名	柳田 洋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達的基础』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かもがわ出版）
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。
 適宜、レポート等の提出を課す。
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害	障害の理解
9	知的障害	保育上の留意点
10	広汎性発達障害	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害	保育上の留意点
12	自閉症	障害の理解
13	自閉症	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり

平成 23 (2011) 年度入学者

学科教育科目

25年	日		月		火		水		木		金		土	
		1		2		3	入学式	4		5		6		
	7		8 ① I期授業開始	9 ①		10 ①		11 ①		12 ①		13 ② 木曜日科目授業日		
4月	14		15 ②	16 ②		17 ②		18 ③		19 ②		20 ③ 水曜日科目授業日		
	21		22 ③	23 ③		24 ④		25 ④		26 ③		27		
	28		29 昭和の日	30 ④ 月曜日科目授業日		1 ⑤		2 ⑤		3 憲法記念日		4 みどりの日		
	5		6 敬老の日	7 ④ 振替休日		8 ⑥		9 ⑥		10 ④		11 ⑤ 月曜日科目授業日		
5月	12		13 ⑥	14 ⑤		15 ⑦		16 ⑦		17 ⑤		18 ⑥ 火曜日科目授業日		
	19		20 ⑦	21 ⑦		22 ⑧		23 ⑧		24 ⑥		25 ⑦ 金曜日科目授業日		
	26		27 ⑧	28 ⑧		29 ⑨		30 ⑨		31 ⑧		1 ⑨ 月曜日科目授業日		
	2		3 ⑩	4 ⑨		5 ⑩		6 ⑩		7 ⑨		8		
6月	9		10 創立記念日	11 ⑩		12 ⑪		13 ⑪		14 ⑩		15		
	16		17 オープンキャンパス	18 幼稚園参加指導実習		19 幼稚園参加指導実習		20 幼稚園参加指導実習		21 幼稚園参加指導実習		22 幼稚園参加指導実習		
	23		24 幼稚園参加指導実習	25 幼稚園参加指導実習		26 幼稚園参加指導実習		27 幼稚園参加指導実習		28 幼稚園参加指導実習		29 幼稚園参加指導実習		
	30		1 幼稚園参加指導実習	2 幼稚園参加指導実習		3 幼稚園参加指導実習		4 幼稚園参加指導実習		5 幼稚園参加指導実習		6 幼稚園参加指導実習		
	7		8 ⑪	9 ⑪		10 ⑫		11 ⑫		12 ⑪		13		
7月	14		15 海の日	16 ⑫		17 ⑬		18 ⑬		19 ⑫		20 オープンキャンパス		
	21		22 ⑫ オープンキャンパス	23 ⑬		24 ⑬ 月曜日科目授業日		25 補講日		26 ⑬		27 ⑭ 火曜日科目授業日		
	28		29 ⑭	30 予備日		31 ⑭		1 ⑭		2 ⑭		3 オープンキャンパス		
	4		5 ⑮	6 ⑮		7 ⑮		8 ⑮		9 ⑮		10		
8月	11		12	13		14		15		16		17		
	18		19	20		21		22		23		24 オープンキャンパス		
	25		26 保育所参加指導実習 施設参加指導実習	27 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		28 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		29 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		30 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		31 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		
9月	1		2 保育所参加指導実習 施設参加指導実習	3 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		4 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		5 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		6 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		7 保育所参加指導実習 施設参加指導実習		
	8		9	10		11		12		13		14		

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成25年度(2013年度) 学年暦〔Ⅱ期〕

25年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	8	オープンキャンパス	9		10		11		12		13	①	14	① 月曜日科目授業日
	15		16	敬老の日	17	①	18	①	19	①	20	②	21	
	22		23	秋分の日	24	②	25	②	26	②	27	③	28	
	29		30	②	1	③	2	③	3	③	4	④	5	
	6		7	③	8	④	9	④	10	④	11	⑤	12	
10月	13		14	体育の日	15	⑤	16	⑤	17	⑤	18	⑥	19	
	20		21	④	22	⑥	23	⑥	24	⑥	25	⑦	26	
	27		28	⑤	29	⑦	30	⑦	31	⑦	1	⑧	2	
	3	文化の日	4	振替休日	5	⑥ 月曜日科目授業日	6	⑧	7	⑧	8	⑧ 大学祭準備	9	⑧ 大学祭
	10	大学祭	11	大学祭後片付け	12	⑧	13	⑨	14	⑨	15	⑨	16	
11月	17		18	⑦	19	⑨	20	⑩	21	⑩	22	⑩	23	⑩ 勤労感謝の日
	24		25	⑧	26	⑩	27	⑪	28	⑪	29	⑪	30	
	1		2	⑨	3	⑪	4	⑫	5	⑫	6	⑫	7	
	8		9	⑩	10	⑫	11	⑬	12	⑬	13	⑬	14	
	15		16	⑪	17	⑬	18	⑭	19	⑭	20	⑭	21	
12月	22		23	天皇誕生日	24	⑭	25	⑫ 月曜日科目授業日	26		27		28	
	29		30		31		1	⑫ 元日	2		3		4	
	5		6	⑬	7	⑮	8	⑮	9	⑮	10	⑮	11	
	12		13	成人の日	14	補講日	15	補講日	16	補講日	17	⑮ センター試験準備	18	⑮ センター試験
	19	センター試験	20	⑭	21	補講日	22	補講日	23	⑮ 月曜日科目授業日	24	補講日	25	
1月	26		27	補講日	28	予備日	29		30		31		1	
	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11	建国記念の日	12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
2月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	2		3		4		5		6		7		8	
3月	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21	⑮ 春分の日	22	
	23	卒業式	24		25		26		27		28		29	
	30		31											

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第三部 平成23年度（2011年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)			備考	ページ
			必修	選択			1年	2年	3年		
学	音楽教育A	演習	1					2			
	音楽教育B	演習		1					2		
	音楽教育C	演習		1						2	91
	音楽教育D	演習		1						2	92
	器楽A	演習		1			2				
	器楽B	演習		1				2			
	造形A	演習	1					2			
	造形B	演習		1					2		
	幼児体育A	演習	1						2		
	幼児体育B	演習		1					2		
科	算数	講義		2							不開講
	生活概論	講義		2							不開講
	子どもの保健 A	講義		2			2				
	子どもの保健 B	講義		2				2			
	子どもの保健	演習		1					2		93
	子どもの食と栄養A	演習		1				2			
	子どもの食と栄養B	演習		1					2		
	家庭支援論	講義		2						2	94
	社会福祉	講義	2							2	95
	相談援助	演習		1						2	96
教	児童家庭福祉	講義		2			2				
	教育原理	講義	2						2		97
	保育原理A	講義	2				2				
	保育原理B	講義		2						2	98
	社会的養護	講義		2			2				
	保育相談支援	演習		1						2	99
	教育実習	実習		5				5			100
	保育実習	実習		4				4			
	保育実習指導	演習		2				2			
	保育実習	実習		2						2	101～102
育	保育実習指導	演習		1						1	103～104
	保育実習	実習		2						2	105
	保育実習指導	演習		1						1	106
	保育の心理学	講義	2				2				
	保育の心理学	演習		1					2		107
	教育心理学	講義		2					2		108
	児童心理学	講義		2				2			
	青年心理学	講義		2			2				
	臨床心理学	演習		2				2			
	教育制度論	講義		2					2		109
科	教師・保育者論	講義	2							2	110
	保育課程総論	講義	2				2				
	保育内容総論	演習		1			2				
	保育内容・健康	演習		2				2			
	保育内容・人間関係	演習		2					2		
	保育内容・環境	演習		2				2			
	保育内容・言葉	演習		2			2				
	保育内容・表現A	演習		2					2		
	保育内容・表現B	演習		2					2		
	保育方法論	講義		2			2				
目	社会的養護内容	演習		1			2				
	乳児保育A	演習		1			2				
	乳児保育B	演習		1					2		111
	障害児保育A	演習		1				2			
	障害児保育B	演習		1					2		112
	教育相談	講義		2					2		113
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2					2		114

(注意) 印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
 印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。
 備考欄の は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C				
担当者氏名	田中 敬子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

「音楽教育C」は、集団授業とピアノの個人レッスンを隔週で行う。1年次で身に付けた基礎的な技能を生かし、保育実習や教育実習にも対応できるように、保育現場での実践力と豊かな音楽表現力を様々な活動を通して習得する。また、それと同時に、音楽を多角的に捉えられる力を身に付ける。

《授業の到達目標》

集団授業 保育現場で用いることができる音楽活動の内容及び指導法を習得する。保育者として必要とされる総合的な音楽表現力と音楽知識を身に付ける。

個人レッスン 子どもの歌の弾き歌い、リズム曲、ピアノ曲のレパートリーを広げるとともに、豊かな表現力と実践力を身に付ける。実習や就職試験に対応できるよう、初見力や応用的な読譜力を身に付ける。

《成績評価の方法》

クラス授業50%、ピアノ個人レッスン50%の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』 『ぴあのってすばらしい』
『Cookin' Music ~基礎から始める音楽づくり』
(共同音楽出版社) 適宜プリント配布

《参考図書》

『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他、資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》

授業で実践した内容の復習を十分にしておき、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。特にピアノ学習においては、毎日の練習の積み重ねが必要です。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。室内での飲食厳禁。爪は短く切っておくこと。授業計画は、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育C』授業内容の説明(AB、CD合同)	授業形態、シラバス、使用テキスト、受講票、学生コンサート等説明。ピアノレッスン担当者の発表。確認小テストの説明。
2	(集団A,C)確認小テスト(個人B,D)	(集団)子どもの歌から確認小テスト(確認のみ)。ソルフェージュ、リズム、楽典(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
3	(集団B,D)確認小テスト(個人A,C)	(集団)子どもの歌から確認小テスト(確認のみ)。ソルフェージュ、リズム、楽典(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
4	(集団A,C)初見唱、初見奏(個人B,D)	(集団)子どもの歌、初見唱、初見奏、ソルフェージュ、楽典(拍子について)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
5	(集団B,D)初見唱、初見奏(個人A,C)	(集団)子どもの歌、初見唱、初見奏、ソルフェージュ、楽典(拍子について)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
6	(集団A,C)コードネーム(個人B,D)	(集団)子どもの歌、伴奏法、楽典(コードネーム)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
7	(集団B,D)コードネーム(個人A,C)	(集団)子どもの歌、伴奏法、楽典(コードネーム)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
8	(集団A,C)身体表現、伴奏(個人B,D)	(集団)子どもの歌、ボディーパーカッション、伴奏法、楽典(コードネーム)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
9	(集団B,D)身体表現、伴奏(個人A,C)	(集団)子どもの歌、ボディーパーカッション、伴奏法、楽典(コードネーム)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
10	(集団A,C)即興演奏(個人B,D)	(集団)子どもの歌、即興演奏、様々なピアノ奏法、楽典(移調)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
11	(集団B,D)即興演奏(個人A,C)	(集団)子どもの歌、即興演奏、様々なピアノ奏法、楽典(移調)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
12	(集団A,C)創作音楽(個人B,D)	(集団)子どもの歌、音遊び、絵本の読み聞かせと創作音楽、楽典(総復習)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
13	(集団B,D)創作音楽(個人A,C)	(集団)子どもの歌、音遊び、絵本の読み聞かせと創作音楽、楽典(総復習)(個人)弾き歌い及びピアノ曲のレッスン。
14	(集団A,C)まとめ(個人B,D)まとめ	(集団)歌と伴奏、即興演奏(個人)ピアノ実技発表会。
15	(集団B,D)まとめ(個人A,C)まとめ	(集団)歌と伴奏、即興演奏(個人)ピアノ実技発表会。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D				
担当者氏名	中島 龍一、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

保育者として望ましい姿勢は、活動の結果や技術的な面ばかりに目を向けるのではなく、こどもの表現しようとする意欲を受け止め、表現する喜びを共に育てていかななくてはなりません。また、様々な状況の中でこども一人ひとりに偏りなく接していくことが重要です。これらのことを踏まえて、「音楽教育ABC」「器楽AB」で習得したものを更に広げていく研究をします。

《授業の到達目標》

こどもの歌をできるだけ多く弾き、うたうことができる。
幼児教育者として現場で必要とされる音楽の知識と技術を身に付けることができる。
就職試験を視野に入れた、多種にわたるピアノ曲が弾けることができる。(楽曲・リズム曲等)

《成績評価の方法》

クラス授業50%、ピアノ個人レッスン50%の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』 『ぴあのってすばらしい』
『Cookin' Music ~基礎から始める音楽づくり~』
(共同音楽出版社)

《参考図書》

『子どもの歌から広がる音楽表現』(共同音楽出版社)
その他資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》

授業で実践した内容の復習を十分にしておき、自分のものとして使えるように練習を重ね、レパートリーを広げていくことが大切です。特にピアノ学習においては、毎日の練習の積み重ねが必要です。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
室内での飲食厳禁。
爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽教育D』授業内容の説明(AB,CD各合同)	シラバス・受講表・学生コンサート・使用テキスト等についての説明。ピアノ個人レッスン担当者の紹介。
2	うたう事の大切さ AC ピアノレッスン BD	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。/ピアノ個人レッスン。
3	うたう事の大切さ BD ピアノレッスン AC	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。/ピアノ個人レッスン。
4	うたう事の大切さ AC ピアノレッスン BD	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。/ピアノ個人レッスン。
5	うたう事の大切さ BD ピアノレッスン AC	『うたのメルヘン』『おんがく玉手箱』『Cookin' Music』の中からできるだけ多くの歌をうたい、覚える。/ピアノ個人レッスン。
6	歌と表現 AC ピアノレッスン BD	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。/ピアノ個人レッスン。
7	歌と表現 BD ピアノレッスン AC	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。/ピアノ個人レッスン。
8	歌と表現 AC ピアノレッスン BD	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。/ピアノ個人レッスン。
9	歌と表現 BD ピアノレッスン AC	手遊び・歌遊び・手話等による歌や音楽表現法を学ぶ。/ピアノ個人レッスン。
10	コーラスを楽しむ AC ピアノレッスン BD	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。/ピアノ個人レッスン。
11	コーラスを楽しむ BD ピアノレッスン AC	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。/ピアノ個人レッスン。
12	コーラスを楽しむ AC ピアノレッスン BD	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。/ピアノ個人レッスン。
13	コーラスを楽しむ BD ピアノレッスン AC	歌によるアンサンブルを体験し、音楽的感覚を養う。/ピアノ個人レッスン。
14	総合復習 AB,CD各合同	期「音楽教育D」の総復習。一人ずつによる音楽表現発表会。
15	総合復習 AB,CD各合同	期「音楽教育D」の総復習。一人ずつによるピアノ研究演奏発表会。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健				
担当者氏名	西村 美穂代				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

乳児保育や小児保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。さらに地域保健活動等についても理解を深める。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店 2012

《参考図書》

『小児保健の基礎知識』 巷野悟郎監修、日本小児医事出版社、2005・『小児保健実習ノート』 榊原洋一監修、診断と治療社、2009・『こどもの保健1』 佐藤益子編著、みなみ書房、2011

《授業の到達目標》

- ・子どもの健康状態を把握する観察方法や測定技術を学ぶ。
- ・子どもの心身の健康増進と保育に必要な援助を学ぶ。
- ・子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。
- ・救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。
- ・子どもの心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：実習には、事前に講義内容を復習し、実習の概要（必要物品・手順等）について理解を深め臨むことで主体的に実習することができると考えます。
 (2) 復習の方法：授業内容の不明な点は質問し、理解を深めることが大切です。

《成績評価の方法》

(1) 筆記試験 80% (試験はテキストの「持ち込み可」にて実施する) (2) 授業内実習 20% (実習への参加意欲及び実技とレポートの記入内容によって評価する)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	小児保健を学ぶ意義 援助技術の基本	小児保健を学ぶ目的、保健活動のあらまし、保健活動と保健計画について理解する。 援助技術の基本としてボディメカニクスを理解する。
2	小児の発達・健康観察	子どもの健康状態の観察と記録について理解する。
3	小児の発達・健康観察	子どもの身体発育の特徴、身体測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
4	小児の発達・健康観察	子どもの生理機能の特徴、生理機能測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
5	小児の健康と養護	子どもの健康増進と保育の環境を理解する。
6	小児の健康と養護	子どもの生活習慣と心身の健康について理解する。
7	小児の健康と養護	衣服の着脱、おむつ交換・沐浴方法等をモデル人形を使用し演習する。
8	小児の疾病と対応	子どもによく起こる症状に対する看護を理解する。薬法や与薬の方法を理解する。
9	小児の疾病と対応	子どもによく起こる病気に対する看護と慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について理解する。
10	小児の疾病と対応	感染の予防、子どもに起こりやすい感染症と対処、予防接種、保育環境の保健管理・消毒等について理解する。
11	事故と応急手当	乳幼児の事故の現状と応急処置について理解する。
12	事故と応急手当	子どもの救急処置、心肺蘇生法について理解する。
13	救急処置・救急蘇生法	救急処置、心肺蘇生法の実際を人形を使用し演習する。
14	健康教育・家庭、地域との連携	子どもの養護環境と心の健康問題について理解する。
15	学習のまとめ	補足とまとめ 理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論				
担当者氏名	太田 顕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

乳幼児期、子どもが適切な環境の中で育っていく上で家庭の役割は非常に大きい。しかし現代においては少子化や核家族化等に伴い育児不安の高まりや教育力の低下が指摘されている。また、それを支える地域の教育力の低下も指摘されている。そのような背景において近年子育て家庭が機能することを支える役割が保育者に求められている。本講義では近年の背景を踏まえた家庭支援の在り方について学ぶ。

《授業の到達目標》

保育者が保育の専門性に基づく固有の理念や方法をもって行う家庭支援の在り方について主体的に考えることができる。
 保育所や幼稚園、福祉機関での事例を検討しながら実践的に学習することにより、保育現場等で起こりうる諸問題に対し、見通しをもつ力を身につける。

《成績評価の方法》

期末試験70%、レポート課題の提出20%（提出遅れについては減点する）、授業への参加態度10%

《テキスト》

『よくわかる家庭支援論』橋本真紀・山縣文治 編、ミネルヴァ書房、2012

《参考図書》

『発達障害の子どもを育てる家族への支援』柘植雅義・井上雅彦編著、金子書房、2010
 『家族心理臨床の実際-保育カウンセリングを中心に』上里一郎監修・滝口俊子・東山弘子編、ゆまに書房、2008

《授業時間外学習》

- ・事前学習として教科書の指定箇所を目を通しておくこと。
- ・復習として授業内容を再確認し、不明な点は質問する若しくは調べる等して解決しておくこと。

《備考》

近年保護者や地域社会への適切な援助が保育者の専門性として求められています。「信頼される保育者とは？」という問いをもち授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭支援が求められる背景と意義	何故今家庭支援が求められているのか、その理念と構造、意義について理解する。
2	家庭支援の全体像	現代社会において家族が抱える問題について、その特性を説明することができる。
3	親になるプロセス	発達に応じた家族の役割について乳幼児期における家族の姿やその問題点について理解説明することができる。
4	乳幼児期における家庭支援の意味	乳幼児期における保育者の役割、姿勢について、保育スキルを用いた現場での事例から考察する。
5	保育所・幼稚園における家庭支援	保育所における家庭支援の手段や方法、その実際について様々な子育て支援について説明することができる。
6	障害のある子どもと家庭への支援	障害のある子どもを育てている保護者が抱える問題について説明することができる。
7	障害のある子どもの家族への支援	障害のある子どもを育てている保護者への支援の実際について事例を検討しながら理解する。
8	障害のある子どもと家族への支援 DVD視聴	障害のある子どもを育てている保護者への支援の在り方についてDVDをヒントに考察する。
9	家庭支援の実際	ロールプレイを通して支援の方法を学ぶ。
10	家庭支援の実際	ロールプレイから具体的な援助計画が作成できるようになる。
11	家庭支援の実際	個別的な家庭支援の必要なケースにおける展開過程と評価、終結について理解する。
12	ペアレントトレーニングの実際	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた目標設定の方法について理解する。
13	ペアレントトレーニングの実際	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた行動と評価の方法について理解する。
14	ペアレントトレーニングの実際	ペアレントトレーニングのプログラムに基づいた計画を作成することができる。
15	これからの保育者の専門性 家庭支援とは	これからの保育者に求められるスキル、固有の理念について今後の展望について説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉				
担当者氏名	藤野 ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

《授業の到達目標》

社会福祉の意義、理念について考えることができる。
 社会福祉の法制度、体系を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

《成績評価の方法》

毎回の講義ごとの小レポート40%、 試験 60%

《テキスト》

『社会福祉の成立と課題』井村圭壮・相澤譲治、勁草書房、2012

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の成立と理念	社会福祉の成立過程と理念を理解し、社会福祉の全体像を概観する。
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の目的、対象、主体、ニーズの変容を理解する。
3	社会福祉従事者	社会福祉従事者の概要、専門性と倫理、関連する専門職について説明することができる。
4	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史展開を理解する。
5	社会福祉の法体系	社会福祉に関連する法体系を理解することができる。
6	公的扶助	公的扶助の概要と保護の実態を理解する。
7	高齢者福祉	高齢者福祉の基本的な制度を理解する。
8	障害者福祉	障害者福祉の基本概念を理解し、各種社会制度の現状を理解する。
9	児童家庭福祉	児童家庭福祉をとりまく現状を理解する。
10	児童家庭福祉	児童家庭福祉に関わる現状と課題を理解する。
11	社会福祉援助技術	社会福祉援助技術の形態を理解する
12	社会福祉援助技術	社会福祉援助技術の動向を理解する
13	利用者保護制度の概要	利用者保護制度の目的と仕組みを理解する
14	利用者保護制度の概要	第三者評価と情報提供を理解する
15	まとめ	講義の振り返りを行う

《学科教育科目》

科目名	相談援助				
担当者氏名	大西 雅裕				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や施設を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《テキスト》

赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社（発行年月日：2012年4月10日）

《参考図書》

対人援助実践研究会編『77のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美出版

《授業の到達目標》

相談援助の基本的な知識を身につける
 保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
 援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

講義については、資料を作成し配布いたします。そして授業にむけての予習及び復習を丁寧に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 単元ごとに課すレポート 10%
 小テスト 10%

《備考》

授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ
6	対人援助の原則 ソーシャルワーク実践の方法	原則について学ぶ ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ
9	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ
11	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ
12	コミュニケーション面接技法	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ
13	コミュニケーション面接技法	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ
14	コミュニケーション面接技法	面接技法について学ぶ
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる。（筆記試験の実施）

《学科教育科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

教育の意味や意義および人間形成の過程と環境の関わりについて学ぶことを通して「教育とは何か」について理解する。さらに、教育の目的・目標と教育の内容や方法との関連性を把握できるようにすることで、意図的教育の役割と人間（特に幼児期の子ども）理解の有機的な連関について学ぶことができるようにしたい。また、幼児教育の歴史を支えてきた思想家の教育論と実践にも目を向けるようにしたい。

《授業の到達目標》

人間にとって「教育」は必須で不可欠なものである。つまり教育は、生命を維持し生活力（知識や技能）を身につけるための基礎を培うことから、さらに人間性の涵養に至る全人格の育成に関わる営みであると言える。この巨視的にして普遍的な教育の働きについて理解するとともに、人間形成の土台にあたる幼児期の教育について、原理的な観点から考察することで人間教育への洞察を深めたい。

《成績評価の方法》

平常評価（授業内の課題やレポート課題）40%と学期末のまとめの課題テスト60%で評価する。

《テキスト》

岸井勇雄編著『幼児教育の原理』同文書院

《参考図書》

村上泰治編著『幼児教育学』学文社
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・テキストやノートを読むことで予習復習し、学習内容の理解と定着を図る。
- ・平常のレポート課題をまとめる。

《備考》

基本的にはシラバスの内容と順序に即して授業を進めるが、進行状況によって若干内容に変更が生じる場合がある。また、出席と平常の課題提出を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 教育とは何か	授業の進め方について 「教育」について客観的な視点をもつ＝「問い」つつ理解することについて学ぶ。
2	教育の意味と意義について	「人間の教育」という普遍的な観点から「教育とは何か」について考察する。 また、教育の字義から教育の意味や意義について理解する。
3	人間の成熟や発達と教育の関係について	人間形成の過程と環境との関係性について理解する。
4	人間の社会化と教育の関係について	社会化の過程としての学習と教育の役割について学ぶ。
5	教育の目的・目標について	教育における目的・目標の意味と機能を理解する。また、幼児期の教育および学校教育の目的・目標の内容とそれらを規定する教育法規を把握する。
6	教育内容与方法について	教育の目的・目標と内容や方法の関連について学ぶ。とくに幼児教育における「領域」の概念と保育活動の特質や意義について理解できるようにする。
7	教育課程と保育の展開について(1)	幼児期における教育課程の意義と役割について学ぶとともに、保育形態と保育活動の展開(事例1)に照らしてそれらを理解できるようにする。
8	教育課程と保育の展開について(2)	保育形態と保育活動の展開(事例2)を通して、幼児教育の教育課程について理解することができるようにする。
9	幼児理解と支援について(1)	幼児理解と支援の基本的な観点について学び、保育活動のなかの指導と援助のあり方について考察する。
10	幼児理解と支援について(2)	幼児理解と支援について、観察法や記録方法から学ぶ。
11	幼児教育の思想と歴史(1)	西洋における近代教育と幼児教育の源流 コメニウスの教育論を通して体系的な教育について学ぶ。
12	幼児教育の思想と歴史(2)	ルソーの教育論を通して自然の教育や幼児期固有の教育のあり方について学ぶ。 ペスタロッチの教育論から人間の認識力の育成について学ぶ。
13	幼児教育の思想と歴史(3)	フレーベルの教育論から幼児期の信頼感の形成や遊びの意義について学ぶ。 デュイの教育論を通して経験主義に基づく教育について学ぶ。
14	幼児教育の思想と歴史(4)	日本における幼児教育草創期の保育事業と倉橋惣三の幼児教育論を通して、この時期の保育内容の展開の変遷や保育活動の体系化の歴史について理解する。
15	予備およびまとめ	まとめの課題テストを通して学習の定着を図る。

《学科教育科目》

科目名	保育原理 B				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

歴史的に行われてきた保育実践、および、現代の保育活動と幼児理解について考察する。とくに、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナーらの古典的な保育理念と保育方法論について学び、それらが今日も生き続けていること、また、日本の保育実践にも影響を与えてきたことについて理解できるようにしたい。さらに、現在の保育の課題についても洞察できるようにする。

《授業の到達目標》

1. 保育理念や保育形態について学ぶことで、保育形態を保育実践へとつなげていくという意識をもつことができるように努める。それぞれ歴史的な保育実践家の保育観に支えられた保育実践と遊具や教具について理解する。2. 保育活動の事例を通して、保育の課題について理解できるように努める。あわせて現在の保育を取り巻く諸課題への認識が広がるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（40%）および授業最終日のまとめの課題提出（60%）をもって総合的に評価する。

《テキスト》

適宜資料を配布する。また、各自、授業に関する自筆のノートを仕上げ、授業のまとめ課題テストに臨むことができるようにする。

《参考図書》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

自筆ノートや資料、参考図書をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内で出された課題に取り組むようにする。

《備考》

平常の課題提出や出席を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・保育の意義と保育状況の創出(1)	授業の進め方について 保育の意義を再認識し、保育活動が展開される場の状況という視点について理解する。
2	保育の意義と保育状況の創出(2) - 遊びの活動	保育活動が展開される場の状況について、自由遊びの場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
3	保育の意義と保育状況の創出(3) - 遊びの活動	保育活動が展開される場の状況について、設定保育の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
4	保育の意義と保育状況の創出(4) - 生活力の形成	保育活動が展開される場の状況について、生活に関する活動の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
5	保育の意義と保育状況の創出(5) - 園外保育	保育活動が展開される場の状況について、園外保育や安全保育に関する保育活動の場の状況から保育活動の創出について洞察を深める。
6	幼児理解と支援のあり方について - 事例(1)	幼児の描画を通して見た幼児の育ちと保育者の関わりについて洞察を深める。
7	幼児理解と支援のあり方について - 事例(2)	保育活動の事例を通して幼児と保育者の関わり方について考察する。
8	現代に生きる保育実践1. フレーベルの幼児教育	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 フレーベルの幼児教育の原理と方法
9	フレーベル主義の保育実践例	現代に生きるフレーベル主義の保育活動の事例に学ぶ。 恩物を用いた保育活動と幼児の育ち
10	現代に生きる保育実践2. モンテッソーリの方法	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 モンテッソーリの幼児教育の原理と方法
11	モンテッソーリの保育実践例	現代に生きるモンテッソーリ主義の保育活動の事例に学ぶ。 モンテッソーリの教具と保育の5領域
12	現代に生きる保育実践3. シュタイナーの保育論	保育の歴史のなかで重要な位置を占める保育思想と保育実践に学ぶ。 シュタイナー主義の保育理論と幼児の育ち
13	シュタイナー主義による保育実践例	ホメオパシーにもとづく小集団を単位とした保育活動と芸術活動を核とした保育実践
14	現代保育の課題について	安全教育、健康教育、連携保育について理解を深める。
15	まとめと課題	まとめの課題作成

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援				
担当者氏名	高見 スマ子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるよう学習する。

《テキスト》

別途指示

《参考図書》

授業中適宜紹介する。

《授業の到達目標》

保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
 保育相談支援の実践を学び、内容や方法を理解し、保育所等児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

授業前にテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポートおよび小テスト（20%）
 筆記試験（80%）

《備考》

保育実習での経験を生かされるよう、実習ノート等を活用してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点 1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点 2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本 1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本 2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開 1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開 2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援 1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援 2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者への保育相談支援 1	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者への保育相談支援 2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援 - 1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援 - 2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援 1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援 2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者氏名	三井 圭子、青木 好代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

参加指導実習の目的、意義を理解する。課題を持って、参加指導実習をする。幼稚園教育の目的、意義をよく理解する。年齢別に子どもの成長発達を理解する。子どもの遊びを研究し、子どもが楽しむ保育を考える。保育に参加するという目的を持ち意欲を持って臨む。知識、技能を活かし、参加指導実習で保育力を身につける。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』『実習の手引き』授業で配布
 『実習日誌の書き方』萌文書林『保育実技』萌文書林
 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

適宜授業中に紹介する

《授業の到達目標》

子どもを見る視点、教師の動きから意図すること、思いなどを読み取り実習記録が書ける。環境構成、子どもの活動、教師の援助等の適切なことばで書く。子どもへのかかわり方など保育技術を学び、保育者としての資質を身につける。子どもの前で保育する力を身につける。指導計画を作成し、部分保育、研究保育をし、課題を知り、実践する力をつける。

《授業時間外学習》

絵本の読み聞かせ、手遊び、リズム遊び、ピアノで歌唱指導など授業で学んだことを力にして実践に活かす。図書館などで、数多く絵本に接し子どもの前で読む絵本を選ぶ。保育雑誌で実際に役立つ5領域の遊びや教材を研究する。動くおもちゃ、折り紙、子どもが楽しむものを制作し実習に役立てるように準備をする。常にハサミ、のり、セロテープ等準備し持参。

《成績評価の方法》

授業中に課する提出物 10%
 授業中の発表内容、態度 20%
 実習園の評価・実習ノート 70%

《備考》

教育実習を受ける資格条件を理解し、遵守する。積極的に発表をし、意欲を持って授業に取り組む。遅刻早退はしない。授業の妨害、私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の目的・意義 参加指導実習の目的・意義	幼稚園教諭の免許取得に必要な実習であることを理解し、保育者としての資質について考え、今までの授業でついた知識、技能を発揮し、参加指導実習に臨む。
2	実習日誌の書き方	子どもを見る視点、教師のかかわりを見る視点から、観察記録を取る。なぜ保育するか意味も考える。子どもの育ちを援助する方法を学び、教師の意図、思いを理解する。
3	実習日誌の書き方	環境構成、子どもの活動、教師の援助など記入方法を取得しながら、保育に参加した時の自分の考え、思いも書ける。
4	実習日誌の書き方	実習生としての課題や、問題など、保育に参加して、記録する方法を知り指導計画作成へとつなげる。
5	指導計画作成模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
6	指導計画作成模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
7	指導計画作成模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
8	指導計画作成模擬保育と相互学習	部分保育、研究保育の内容を考え、決定し指導計画を作成する。実際、模擬保育をし、お互いに検討し、意見を述べ、保育内容の充実を図る。
9	参加指導実習直前指導	実習の心得、礼儀、マナー、言葉遣い等、諸注意事項を確認する。DVD視聴する。指導計画書の見直しをし、準備物等の確認をする。
10	参加指導実習の反省と課題実習園へのお礼	参加指導実習を終えて、反省と課題を発表する実習園へのお礼状を書く。
11	参加指導実習の反省と課題発表・自己評価	参加指導実習を終えて、これから保育者としての課題をグループ討議をし発表する自己評価をする。
12	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋ぐ保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
13	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋ぐ保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
14	課題研究・実践内容発表	子どもが喜ぶ遊びを考え、その方法や環境構成に繋げる保育内容をテーマとして、実践発表をする。課題の検討をする。
15	評価とまとめ	実践内容発表の評価をする。授業のまとめをし、学んだことを説明する。

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める。

《テキスト》

特に決まったものはありません。
実習の中で自分で探すこと。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考書、配布物等自分で書き留めたノート、自分で調べたり、体験したことを等。実習先の先生方にも紹介してもらおう。

《授業の到達目標》

保育所の役割や機能について理解を深める。
計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。
遊びのレポーターを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。アルバイトは禁止。実習ノートは丁寧に書くこと。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導 の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)
なお、保育実習 は保育所2週間の実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつける。
欠席等は、実習園と大学に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	各実習園で実習スタイルは様々です。
2	保育実習	例えば年齢で言えば、各年齢を順番に回ったり、一つの年齢でとどまったり。各実習園の指示をよく聞いてください。
3	保育実習	質問があれば、積極的に尋ねること。
4	保育実習	2週間(10日間)頑張ってください。
5	保育実習	(保育実習中)
6	保育実習	(参考) 保育所参加指導実習
7	保育実習	保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理について理解を深める。
8	保育実習	実習に積極的に参加し、指導法等も身につける。また、PDCAサイクルの重要性を知り実習の中で活かす。
9	保育実習	(保育実習中)
10	保育実習	(保育実習中)
11	保育実習	(保育実習中)
12	保育実習	(保育実習中)
13	保育実習	(保育実習中)
14	保育実習	(保育実習中)
15	保育実習	(保育実習中)

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育所の生活に積極的に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能や保育士の職務内容についても、より一層、理解を深める

《テキスト》

特に決まったものはありません。
実習中、自分でさがすこと。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考書、配布物等、自分で書き留めたノート、自分でしらべたり、体験したこと等。
実習先の先生方にも紹介してもらおう。

《授業の到達目標》

保育所の役割や機能について理解を深める。
計画に基づく指導実習等を通して子どもへの理解を深める。
実施した保育や実習記録から省察や自己評価を的確に行う。
子どもの実態に即した指導計画を立案する。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。遊びのレパートリーを増やしておく。体調管理等実習に臨む気持ちを高める。アルバイトは禁止。実習ノートは、丁寧に書く。態度は素直が一番。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導 の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)
なお、保育実習 は保育所2週間(10日間)の実習をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

ほう・れん・そうを忘れないこと。(実習園にも・大学にも)実習内容については、各実習園の指示に従う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習	各実習園で実習のスタイルは様々です。
2	保育実習	例えば、年齢でいえば、各年齢を順番に回ったり、一つの年齢でとどまったり。各実習園の指示をよく聞いてください。
3	保育実習	質問があれば、積極的に尋ねること。
4	保育実習	2週間(10日間)頑張ってください。
5	保育実習	(保育実習中)
6	保育実習	(参考)保育所参加指導実習
7	保育実習	保育所の生活を体験し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容・職業倫理について理解を深める。
8	保育実習	特に部分実習、全日実習は積極的に行い指導方法等も身につける。また、PDCAサイクルの重要性を理解し、実習の中で活かす。
9	保育実習	(保育実習中)
10	保育実習	(保育実習中)
11	保育実習	(保育実習中)
12	保育実習	(保育実習中)
13	保育実習	(保育実習中)
14	保育実習	(保育実習中)
15	保育実習	(保育実習中)

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育実習（保育所参加指導実習 8・9月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

事前指導 保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事・心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習に備える。

《成績評価の方法》

この授業は、全出席を前提とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守ること。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導の評価を加え評価する。

《テキスト》

『よくわかる保育所実習(第三版)』百瀬ユカリ(創成社),『実習日誌の書き方』相馬和子他編(萌文書林)

《参考図書》

『最新保育資料集2011』森上史朗編(ミネルヴァ書房)
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館)
いずれも保育原理Aで購入済みです。あとプリントを配付するほか、文献はその都度紹介する。

《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいくよう心がける。「自分の得意ワザ」を見つけておく。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておく。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合、必ず学科事務室へ連絡すること。講義時は保育所での実習と考え出席する(服装、態度)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	保育実習とは
2	事前指導	保育所の概要と実習の様子(視聴覚教材)
3	事前指導	保育所実習希望受け付け 内諾について
4	事前指導	保育所の施設設備、機能の概要
5	事前指導	保育士の職務内容・職業倫理 個人票記入
6	事前指導	乳幼児の姿(視聴覚教材)
7	事前指導	実習中の留意事。(守秘義務・人権の尊重等)
8	事前指導	実習課題の作成 実習記録について(観察の視点)
9	事前指導	指導案の書き方
10	事前指導	指導案の書き方
11	事前指導	指導案の書き方 実習先でのオリエンテーションについて
12	事前指導	部分実習・全日指導について 細菌検査
13	事前指導	直前指導 実習中の心構え・諸注意 配布物の確認 実習終了後の日程
14	事後指導	実習を振り返っての全体討議 アンケート・自己評価等
15	事後指導	実習を振り返ってのグループ討議 保育実習に向けて

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》				
担当者氏名	前田 美智代、古門 貞美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

保育実習（保育所参加指導実習 8・9月2週間）に必要な手続きについて指導するほか、実習の意義・目的、具体的な内容・方法・心構え、実習後の自己評価やそれに基づく新たな課題の発見などについて、保育実習のための事前・事後指導を行います。

《授業の到達目標》

事前指導 保育所実習の意義・目的・内容・方法等を理解する。守秘義務や人権の尊重等実習中の留意事項や心構え、自らの実習課題について理解する。事後指導実習を総括、自己評価し、新たな学習課題を発見するとともに、保育実習に備える。

《成績評価の方法》

この授業は全出席を前提とする。事前指導60%、事後指導40%の比率で、受講態度や提出物、書類の作成状況等に基づき評価する。提出物は期限を守る。なお、最終的な成績は、施設実習に関する保育実習指導の評価を加え評価する。

《テキスト》

『よくわかる保育所実習(第三版)』百瀬ユカリ(創成社), 『実習日誌の書き方』相馬和子他編(萌文書林)

《参考図書》

『最新保育資料集2011』森上史朗編(ミネルヴァ書房)
『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(フレーベル館)
いずれも保育原理Aで購入済みです。あとプリントを配付するほか、文献はその都度紹介します。

《授業時間外学習》

日頃から子どもたちの言動に興味がいくよう心がける。「自分の得意ワザ」を見つけておいて下さい。図書館の絵本コーナーやおもちゃ屋さん、ホームセンター等に出かけ、実習で使えるものを発見しておいて下さい。

《備考》

欠席・遅刻・早退の場合は、必ず学科事務室へ連絡すること。講義時は保育所での実習と考え出席する(服装、態度)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習指導	実習の振り返り(実習記録)
2	保育実習指導	実習の振り返り(実習記録)
3	保育実習指導	実習の振り返り(指導案)
4	保育実習指導	実習を振り返り(指導案)
5	保育実習指導	乳幼児への配慮・支援について
6	保育実習指導	遊びのレパートリー
7	保育実習指導	遊びのレパートリー
8	保育実習指導	保育所の機能・役割について
9	保育実習指導	保育士の職務内容
10	保育実習指導	実習課題の持ち方(視点)
11	保育実習指導	実習中の留意事項(守秘義務・人権の尊重等・安全安心な生活)
12	保育実習指導	乳幼児の姿(発達・成長)
13	保育実習指導	乳幼児の姿と環境構成
14	保育実習指導	保育実習おまとめ
15	保育実習指導	保育実習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《施設実習》				
担当者氏名	小林 洋司、 杉山 貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（受容し、共感する態度、個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解、個別支援計画の作成と実践、子どもの家庭への支援と対応、多様な専門職との連携、地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己課題を明確にする。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習の成果の表れである実習ノート等（40%）。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，（株）みらい，2011

《参考図書》

『最新保育資料集2011』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2011

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで、著しく体力を損なう可能性が高いので、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるよう努める。

《備考》

「保育実習指導」においての諸注意に気を配り、必要に応じて学科事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則，1日 8時間 ×10日間，80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《施設実習》				
担当者氏名	小林 洋司、 杉山 貴要江				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、利用施設を含む）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編，(株)みらい，2011

《参考図書》

『最新保育資料集2011』子どもと保育総合研究所監修，ミネルヴァ書房，2011その他，実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる。
 子どもの状態に応じた適切なかわりができる。 保育士の専門性を生かした支援ができる。 職業倫理を理解し、実践できる。 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して調べ、まとめてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成等（50%），事後指導：報告書の作成等（50%）

《備考》

全出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、学科事務室に連絡してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育士資格の取得における「保育実習」の位置づけ、「保育実習」の目標と内容
2	実習施設の選定	対象となる実習施設等，施設における支援の具体的内容
3	事前指導 1	事前学習の内容，実習施設の理解，施設を利用する児童の理解，安全と疾病予防
4	事前指導 2	保育士と権利保障，実習書類の作成
5	事前指導 3	保育士とソーシャルワーク
6	事前指導 4	保育士と地域社会とのかわり
7	事前指導 5	施設保育士と児童福祉施設
8	事前指導 6	実習計画書の作成，実習施設でのオリエンテーション
9	事前指導 7	実習ノートの書き方
10	事前指導 8	実習当日までにやっておくこと
11	事前指導 9	実習報告書の書き方・提出方法について，実習報告書の作成
12	事後指導 1	「保育実習」の評価とまとめ
13	事後指導 2	実習報告会の準備
14	事後指導 3	実習報告会
15	事後指導 4	保育士資格と進路

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学				
担当者氏名	杉田 律子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちを発達・成長へと導ける質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達の流れを正しく理解するとともに、保育者として子どもたちの発達を促すにはどのように関わっていけばよいのかを考える。

《授業の到達目標》

子どもの心身の発達と保育実践について理解すること。 普段の生活と遊びを通じた学びのプロセスについて理解すること。 子どもの発達を支援する働きかけについて理解すること。 発達を理解したうえで、子ども観および保育観を形成し、それに基づいた保育計画を立てる実践力をつけること。 子どもの生涯にわたる発達について考える広い視野を身につけること。

《成績評価の方法》

第15回目を行う試験の評価 70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組み等の評価 30%

《テキスト》

『新保育ライブラリ 子どもを知る 保育の心理学』
 清水益治・無藤隆（編著） 北大路書房 2011

《参考図書》

『シードブック 保育の心理学』 本郷一夫（編） 建帛社 2011、『発達心理学で読み解く保育エピソード 保育者を目指す学生の学びを通して』 若尾 良徳・岡部 康成 北樹出版 2010、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』 岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目する、ボランティア活動などして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。まずは、自分の生活態度を改めるなど、身近なところから保育者としての実践力を身につける努力をしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学ぶとともに、子どもの発達を正確に捉えるためにはどのような点に留意すべきかを学ぶ。
2	発達の個人差	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。保育における評価の在り方についても考える。
3	環境の重要性と環境としての保育者	子どもたちの発達にとって環境がどれだけ重要であるかを再認識するとともに、保育者という人的環境の重要性について学ぶ。
4	環境としての保育者となる自分自身を知る	将来保育者となる自分はどういう特徴をもった人間なのか、特に人との関わり方にもどのような特徴があるのか。心理検査に答えることを通して自己理解を深める。
5	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当て、仲間との関わりの中で子どもは理解することを学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
6	気になる子どもへの支援～その1	集団の中で気になる子どもへの支援について考える。養育環境、障害、異文化など諸問題への基本的理解を深めるとともに、気になる子どもへのアプローチの基本を学ぶ。
7	気になる子どもへの支援～その2	気になる子どもが在籍するクラスの保育を想定した保育案を立て、保育内容、留意事項を考えることから、集団の中で気になる子どもへの支援について考える。
8	保育者同士の人間関係、保育者の協働	保育者集団に関して、リーダーシップを鍵概念とし、ロールプレイを通して学ぶ。また保育者たちが1つのチームとなり、協働する必要があることを学ぶ。
9	子どもの生活と学び	「学習」とは何かについて学ぶとともに、子どもたちは日常生活で何をどのようにして「学習」するのかについて学ぶ。
10	生活習慣の獲得とその援助	子どもたちが基本的な生活習慣を獲得していくに際して、保護者や保育者はどのように援助すればよいのかを「学習」の観点から学ぶ。
11	遊びと学び	子どもたちの発達にとって遊びがいかに重要かを再認識するとともに、子どもの遊びに保育者はどのように関わっていけばよいかを学ぶ。
12	生きる力の基礎を培う	「生きる力」とはどのような力を指すのか、という問いに対する回答を探るとともに、そのような力はどのようにして身につけていくのかを考える。
13	援助する者と援助される者	援助者と被援助者の役割を実際に体験することを通して、援助する者として配慮すべきことに気づき、援助される者の気持ちを理解する。
14	就学への支援～発達の継続性	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる継続性について理解する。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

15回目に行う試験の評価100%。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[改訂版]』鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著) 有斐閣 2005
『よくわかる教育心理学』中澤潤(編) ミネルヴァ書房 2005
『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	環境の重要性	人間の人間としての発達にとって、生まれてからの環境・経験・学習がいかに重要かを再認識する。
3	学習の心理学～その1	学習を定義づけたいうえで、学習を成立させるメカニズム(古典的条件づけと道具的条件づけ)について学ぶ。
4	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
5	学習の心理学～その3	モデリングと自己強化という学びの形態について学ぶ。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
9	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
10	教授法	学習指導の形態や教授法について学ぶことを通して、効果的な教え方について考える。
11	学級集団	リーダーシップ、ならびに集団への同調という問題について学ぶ。
12	集団の心理	ミルグラムの服従実験を詳細に紹介する。権威的人物に対する服従というテーマについて考える。
13	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

明治以降の日本教育制度史を学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度について検討を加えていく。

《テキスト》

『要説教育制度【三訂版】』森秀夫、学芸図書、2008

《参考図書》

授業中、その都度、紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
- 2 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
- 3 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	教育制度、公教育、公教育の歴史類型、学校制度、学校制度の類型などについて説明することができる。
2	近代以降の日本教育制度（1）	明治期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
3	近代以降の日本教育制度（2）	大正期、昭和(戦前)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
4	近代以降の日本教育制度（3）	昭和(戦後)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
5	現代日本の教育制度（1）	現代日本の保育制度、保育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
6	現代日本の教育制度（2）	現代日本の初等教育制度、初等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
7	現代日本の教育制度（3）	現代日本の中等教育制度、中等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
8	現代日本の教育制度（4）	現代日本の高等教育制度、高等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
9	現代日本の教育制度（5）	現代日本の社会教育制度、社会教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
10	現代日本の教育制度（6）	現代日本の教員養成制度について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
11	現代日本の教育行財政制度	現代日本の教育行財政制度を体系的に説明できるとともに、その課題について検討することができる。
12	学校、教職員と教育法規（1）	現代日本の学校教育についての関係法規を、体系的に説明することができる。
13	学校、教職員と教育法規（2）	現代日本の教職員についての関係法規を、体系的に説明することができる。
14	海外主要国の学校制度	海外主要国の学校制度を、日本の学校制度と比較しながら考察し、その特質について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論				
担当者氏名	前田 美智代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《テキスト》

『改訂保育者論第2版』 民秋言編著 建帛社

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省 『保育所保育指針』 厚生労働省 その他授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
 保育者像を形成することの意義を理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめる。

《成績評価の方法》

- [1] 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- [2] レポート課題等の提出物 30%（提出遅れは、減点）
- [3] 筆記試験 50%

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション目指す保育者像	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
2	保育するということ	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について深く学ぶ。
3	保育の歴史と保育者像	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
4	保育の歴史と保育者像	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
5	保育者の専門性	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。＜視聴覚教材＞
7	保育者の専門性	保育所における保育者の役割について理解を深める。
8	保育者の専門性	保育士の実践活動を通して、保育士の専門性について深く理解する。＜視聴覚教材＞
9	法と保育者	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育者への学習課題	討議「保育者のイメージと自己認識」
12	保育者への学習課題	討議「保育者の専門職性」
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親、園、社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育 B				
担当者氏名	鈴木 富美子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識				

《授業の概要》

- 1、乳児保育 A で学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・授業態度（20%）

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

- 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
- 「乳児保育 演習と講義」金子保著 クオリティケア
- 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
- 「すすすくハンドブック」神戸市保健福祉局
- 「乳児の保育新時代」ひとなる書房
- 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念
2	乳児保育の概念	・乳児保育の歴史 ・乳児保育の概念とその重要性 絵本の読み聞かせと手遊び
3	発達の理論	・発達のとらえ方（環境と成熟） ・発達の順序性と連続性 製作「いないいないばあ人形」
4	発達の姿と特徴	0歳児の発達過程と特徴 0歳児の保育環境 製作「いないいないばあ人形」
5	発達の姿と保育援助	・ホールディングの意味と方法 ・哺乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係 製作「いないいないばあ人形」
6	発達の姿と特徴	1歳児の発達過程と特徴 1歳児の保育環境 製作「アンパンマン人形」
7	発達の姿と保育援助	・探索活動の理解と援助 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助 製作「アンパンマン人形」
8	発達の姿と特徴	2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 2歳児の保育環境 製作「アンパンマン人形」
9	発達の姿と保育援助	・保育士を仲立ちとした友達活動の援助 ・基本的生活習慣自立への援助 製作「手品ボックス」
10	保育の計画	・保育の計画の構造 保育課程と指導計画 製作「カード」
11	指導計画	・指導計画の構造 年間指導計画 月案 週案 日案 評価と反省 製作「カード」
12	指導計画	・指導案の作成 3月の指導案 クリスマス行事の立案
13	事例検討	・個票作成とカンファレンス 個別ケアのあり方 チームワーク 保護者・専門機関との連携 絵本の読み聞かせ
14	乳児を取り巻く現状と課題	・家族、地域社会の現状と育児支援 家族援助・育児支援 地域の育児支援 ふれあい遊び
15	授業の振り返りと理解度の確認	筆記試験

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 B				
担当者氏名	小林 洋司				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題等を踏まえながら障害を理解しようとする構えと、実践的な技能及び認識を高めることをめざして学習することである。

《テキスト》

近藤直子、白石正久、中村直子編『新版テキスト障害児保育』（全障研出版部）、2011

《参考図書》

適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して保育者として障害児/者や彼らを取り巻く人々とどのように接し、行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

障害児者をめぐる課題について情報収集を行うこと

《成績評価の方法》

試験（50％）と小レポート（50％）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念1	障害とは何か
3	障害の概念2	障害とイメージ
4	障害の概念3	障害と福祉
5	障害児保育の現状と課題1	福祉・教育
6	障害児保育の現状と課題2	保健・医療
7	障害児保育の現状と課題3	障害児保育と専門性
8	障害児の支援1	発達障害と虐待 - 保育者としての対応 -
9	障害児の支援2	発達障害と虐待 - 関係機関との連携 -
10	障害児の支援3	ケーススタディ
11	障害児の支援4	ケーススタディ
12	障害児を取り巻く人々の支援1	保護者の支援
13	障害児を取り巻く人々の支援2	きょうだいの支援
14	支援のための環境づくり	障害児が生活しやすい社会づくり
15	学習のまとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育相談				
担当者氏名	大久保 恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル				

《授業の概要》

- 1.教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
- 2.描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
- 3.教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

- 1.子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
- 2.カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
- 3.保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

- 1.授業態度（20%）
- 2.レポート課題等の提出物（20%）
- 3.期末試験（60%）

《備考》

講義の開始時に出席を確認します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1.教育現場とは 2.授業のオリエンテーション 3.自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1.不登校とは 2.その対応
3	教育相談の実際2	1.いじめについて 2.非行について
4	パーソナリティとその理解1	1.心の構造 2.自我の防衛機制について 3.心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1.教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1.子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1.発達障害とは 2.広汎性発達障害 3.LD 4.ADH D
8	カウンセリングとは	1.カウンセリングとは 2.カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1.カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1.主な心理療法について 2.心理検査とは
11	描画体験とその理解	1.描画体験 2.その説明
12	関係機関との連携・協働	1.スクールカウンセラーとは 2.関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1.幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1.具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1.学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				
担当者氏名	福田 規秀、三浦 摩美、前田 美智代、三井 圭子、黒崎 令子、石川 恵美、杉田 律子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識技能を習得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008
 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 2008

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。

社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。

教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見、模擬保育など）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案など）50%、発表（討論での意見、模擬保育など）50%

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力についての講義（幼稚園などからの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。（ロールプレイ）学んだことを幼児理解や保育実践に繋げることができる。
8	講義（4）	保育内容の指導力についての講義（保育所などからの講師）
9	講義からの学び	第8週の講義内容に関する事例研究、グループ討議をする。学んだことをレポートにまとめることで、指導力の向上を図ることができる。
10	模擬保育 1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
11	模擬保育 2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正する。（グループ別）
12	模擬保育 3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
13	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。